(様式第 9)

平成２５年１[redacted]

関東信越厚生局長　殿

開設者名　大　山　善[redacted]

東京医科歯科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　→　別紙参照 (様式第 10)

2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　→　別紙参照 (様式第 11)

3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	１１６ 人

(注)　前年度の研修医の実数を記入すること。

4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
　　→　別紙参照 (様式第 12)

5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
　　→　別紙参照 (様式第 13)

7　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医　師	248人	354人	597.4人	看護補助者	28人	診療エックス線技師		人
歯科医師	人	人	. 人	理学療法士	12人	臨床検査技師	臨床検査技師	68人
薬剤師	45人	12人	56.1人	作業療法士	6人		衛生検査技師	人
保健師	人	人	. 人	視能訓練士	6人		その他	人
助産師	15人	3人	16.6人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師		人
看護師	684人	20人	698.7人	臨床工学技士	21人	医療社会事業従事者		9人
准看護師	人	人	. 人	栄養士	人	その他の技術員		16人
歯科衛生士	人	人	. 人	歯科技工士	人	事務職員		39人
管理栄養士	6人	6人	11.5人	診療放射線技師	40人	その他の職員		131人

(注)　1　報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
　　2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
　　3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者、外来患者及び調剤の数
　　歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	６４０．８人	人	６４０．８人
1日当たり平均外来患者数	２，２３７．７人	人	２，２３７．７人
1日当たり平均調剤数	（入院）８２２．１剤　（外来）４６８．８剤		

(注)　1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
　　2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数 (毎日の 24 時現在の在院患者数の合計) を暦日で除した数を記入すること。
　　3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
　　4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	1人
末梢血幹細胞による血管再生治療	1人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	2人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS－1内服投与の併用療法　原発性乳がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	24	人
当該医療技術の概要	造血器腫瘍に対する移植治療			
医療技術名	放射線免疫治療（ゼバリン治療）	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	悪性リンパ腫に対する免疫放射線療法			
医療技術名	難治性成人発症スティル病に対する生物学的製剤の使用	取扱患者数	0	人
当該医療技術の概要	ステロイド単独もしくは免疫抑制薬併用による治療に反応が不十分で、ステロイドの減量が困難な難治性病態を有する患者、または副作用のためにステロイドや免疫抑制薬による治療が十分に行えず、疾患の良好なコントロールが得られない患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対する生物学的製剤の使用	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	ステロイド単独もしくは免疫抑制薬併用による治療に反応が不十分で、ステロイドの減量が困難な難治性病態を有する患者、または副作用のためにステロイドや免疫抑制薬による治療が十分に行えず、疾患の良好なコントロールが得られない患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	難治性ANCA関連血管炎・全身性エリテマトーデス・関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	難治性の病態を有するリウマチ性疾患のうち、ANCA関連血管炎や全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)においては、リツキシマブの有効性が報告されている。 そこで、ANCA関連血管炎やSLE、RAなどのリウマチ性疾患患者のうち、本邦で現在承認されている既存治療では原疾患の良好なコントロールが得られない難治性病態を有する患者、または副作用のために既存治療が十分に使用できず、原疾患の良好なコントロールが得られない患者を対象にリツキシマブの投与を行った。			
医療技術名	持続血糖測定（CGM)システム	取扱患者数	89	人
当該医療技術の概要	腹部皮下にセンサーを挿入して皮下の組織間質液の糖濃度を24時間継続的に測定する。			
医療技術名	持続皮下インスリン注入療法（CSII)	取扱患者数	9	人
当該医療技術の概要	電動式携帯ポンプにより可変式かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	19	人
当該医療技術の概要	原発性アルドステロン症の部位診断法。放射線科との協力の元、左右副腎静脈より採血し副腎静脈アルドステロン濃度を測定しアルドステロン過剰産生の責任病変を部位診断する			
医療技術名	腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異の同定	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異の同定として、腎性尿崩症・ギテルマン症候群・バーター症候群・腎性低尿酸血症そして偽性低アルドステロン症Ⅱ型を含む30例に対して、遺伝子解析をおこなった。			

医療技術名	Excimer Laser Coronary Angioplasty	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端より照射される紫外域パルスのエキシマレーザーにより冠動脈のアテロームプラーク、石灰等を蒸散させる治療方法。			

医療技術名	高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	微少のダイアモンド粒子でコーティングされた先端チップ(Burr)とそのBurrを回転させる駆動シャフトから構成され、Burrを15～20万回転/分で高速回転することにより、冠動脈のアテローム性プラークを切削する。			

医療技術名	光干渉断層法(OCT)	取扱患者数	152	人
当該医療技術の概要	近赤外線を用いて冠動脈内膜の詳細を観察し、経皮的冠動脈インターベンションの補助を行う画像診断法。			

医療技術名	肺静脈隔離術	取扱患者数	138	人
当該医療技術の概要	心房細動の起源となる肺静脈からの期外収縮の伝導を抑えるため、左心房と肺静脈の間をカテーテルを用いて電気的に隔離する治療方法。			

医療技術名	Hot Balloon	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	高周波Hot balloonにより上記肺静脈隔離術を行う先端治療。			

医療技術名	心臓再同期療法	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	重症心不全に対し右室、左室両方をペーシングし、血行動態の改善を図るペースメーカー治療			

医療技術名	難治性高安動脈炎に対する免疫抑制剤、生物学的製剤による治療	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	通常のステロイド治療が無効な難治例に対して、免疫抑制剤、生物学的製剤による治療を行い高い奏効率を認めている。			

医療技術名	重症心不全に対する対外設置型人工心臓植え込み後の長期管理	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	心臓外科で人工心臓を植え込んだ重症心不全患者の心臓移植待機期間中の内科管理を行っている。当施設は心臓移植実施施設以外では、都内で唯一の植え込み型人工心臓実施施設であり、心臓外科と共同して植え込み語の管理を行っている。治療成績も良好である。			

医療技術名	難治性高安動脈炎に対するPET/CT、遺伝子による診断	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	保険診療の認められていない最新の知見に基づいた遺伝子(HLAおよびSNP)、PET／CTを用いた診断を行っている。他に行っている病院としては他に京大病院のみである			

医療技術名	閉塞性末梢動脈疾患にたいする末梢血単核球移植による治療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	重症虚血肢患者にたいし、自己の末梢血より単核球を分離し虚血肢に投与することで、血管新生、創傷治癒を促進する。			

医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	127	人
当該医療技術の概要	前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。 主な適応疾患はクローン病			

医療技術名	IL28B遺伝子近傍の1遺伝子多型の測定	取扱患者数	500	人
当該医療技術の概要	C型肝炎に対するインターフェロ療法の治療効果を規定する1遺伝子多型を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			

医療技術名	C型肝炎ウイルスコア領域・ISDRの遺伝子変異測定	取扱患者数	1000	人
当該医療技術の概要	C型肝炎に対するインターフェロ療法の治療効果を規定すC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			

医療技術名	ダブルバルーン胆道内視鏡(DBERC)	取扱患者数	60	人
当該医療技術の概要	ダブルバルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う検査			

医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	9	人
当該医療技術の概要	同種骨髄、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。(移植例の中にはHLA2抗原不一致の母親からの骨髄移植例も含む。)			

医療技術名	先天性免疫不全症患者、抗がん剤治療患者あるいは移植患者における網羅的ウイルスPCR法による感染モニタリングとそれに基づく早期治療介入	取扱患者数	40	人
当該医療技術の概要	少量の末梢血(1ml)中のウイルスを網羅的ウイルスPCR法にて増幅し、定量的に検出する。この検査により免疫不全状態で再活性化されるウイルスを速やかに検出して、早期治療介入することによりウイルス感染の治療および重症化阻止に役立てることができる。			

医療技術名	毛細血管拡張性運動失調症での運動失調改善を目指した臨床試験	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	毛細血管拡張性運動失調症での運動失調改善を目指し少量ステロイド療法を行い、その有効性、および安全性を検討している。			

医療技術名	毛細血管拡張性運動失調症での運動失調改善を目指した臨床試験	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	毛細血管拡張性運動失調症での運動失調改善を目指し少量ステロイド療法を行い、その有効性、および安全性を検討している。			

医療技術名	低年齢児に対する全身麻酔下経皮的腎臓針生検	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	1歳の症例に対して、全身麻酔下でエコーガイドのもと経皮的腎生検を施行した。体格が小さいだけでなく、腎臓のサイズも小さいので他臓器の穿刺等の合併症に細心の注意をはらいつつ検査を施行した。			

医療技術名	非典型的溶血性尿毒症症候群に対するエクリズマブによる治療	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	非典型的溶血性尿毒症症候群は溶血性尿毒症症候群のうち1割未満であるとされているが、血漿交換等の治療を行っても死亡するか末期腎不全となってしまう症例が多く、非常に予後の悪い疾患である。今回、欧米における治療報告が散見されるエクリズマブを使用したところ劇的に症状が改善し、末期腎不全へと至ることもなく、通常の生活に戻ることができた。尚、治療開始前に、当院の治験審査委員会の承認を得た。非典型的溶血性尿毒症症候群に対するエクリズマブ治療は本邦で2例目である。			

医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数(平成24年度)	5	人
当該医療技術の概要	従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・代謝内分泌内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。当院は、平成22年度までに、この承認を得て実施中である。			

医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数(平成24年度延べ件数)	194	件
当該医療技術の概要	薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス浪通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	86	人
当該医療技術の概要	従来の開腹手術と異なり、腹部の創を大きく切らずに腹部に1cm前後の穴を数カ所開けてその穴を通して腹部手術を行う。創が小さいため、痛みが少なく、整容性に優れた手術である。			
医療技術名	化学療法後大腸癌肝転移切除	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	切除不能な大腸癌肝転移に対し、化学療法によって転移巣を縮小させて切除を行う。また、切除可能な大腸癌肝転移症例に対しても、化学療法後に肝切除を行うことにより、再発率を低下させる。			
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	11	人
当該医療技術の概要	開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に肝切除を行なう。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に膵体尾部切除を行なう。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	迷走神経刺激による難治性てんかん手術			
医療技術名	術中脳波、ナビゲーションシステム等マルチモダリティーによるてんかん焦点切除	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	FMZ-PET・FDG-PETガイド、術中脳波等のマルチモダリティーによるてんかん焦点切除術			
医療技術名	頭頚部・頭蓋底手術	取扱患者数	45	人
当該医療技術の概要	頭頚部外科・形成外科・耳鼻咽喉科とのチームにて行う頭蓋底腫瘍摘出術			
医療技術名	Met-PETガイド悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	アミノ酸代謝PET結果をガイドに摘出			
医療技術名	非造影MRIによるASL perfusion MRI	取扱患者数	50	人
当該医療技術の概要	造影剤を用いない、MRIによる脳血流評価			

医療技術名	治療が困難な脳動脈瘤に対する頭蓋内血管ステントを用いた脳動脈瘤の血管内手術	取扱患者数	12	人
当該医療技術の概要	これまで開頭術、血管内手術ともに治療が困難であった脳動脈瘤に対して、近年開発されたVasucular reconstruction device(頭蓋内ステント)を用いて母血管の交通性を確保し、動脈瘤を閉塞させる技術である。極めて低侵襲的で患者に負担が少なく、画期的な高度医療技術である。			
医療技術名	内頚動脈完全閉塞(Carotid total occlusion)に対する経皮的血管形成再開通手術	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	これまで内頚動脈完全閉塞症に対する血行再建治療は、外科的な開頭術を用いた頭蓋内外の血管バイパス術が行われていた。本技術はこのような症例に対し、先進的な血管内手術手技及びデバイスを用いて、閉塞した内頚動脈を再開通させ、脳血流を回復させる技術である。逆行性の血行再建であるバイパス術に対して、生理的な順行性の血流が得られる点で画期的であり、極めて低侵襲的で患者に負担が少ない高度医療技術である。			
医療技術名	頭頸部腫瘍に対する内視鏡を併用した腫瘍塞栓術	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	頭頸部領域の腫瘍は広範に進展し、血管成分に富むものが多い。外科治療はinterdisciplinaryなアプローチが必要で、血管内治療はその一翼を担っている。この腫瘍では従来のカテーテルを用いた塞栓術では十分な治療効果が得られないものがある。そのような症例でカテーテル塞栓術に加え、内視鏡観察下に3次元ロードマッピングを用いて鼻腔内で腫瘍を直接穿刺し、塞栓物質を注入して腫瘍を塞栓する外術である。先進的な血管撮影装置、高度な3次元シミュレーションシステム、高精細内視鏡システムを要する高度医療技術である。			
医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	100	人
当該医療技術の概要	脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎や股関節手術をおこなう技術。			
医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	脊椎固定術をハイドロキシアパタイト人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさない技術。			
医療技術名	術中CTを併用した脊椎手術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	脊椎手術中にCT撮影を行うことで、骨切除やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			
医療技術名	滑膜幹細胞移植術	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	自己滑膜から間葉系幹細胞を分離増殖させ、関節鏡視下に軟骨欠損部に移植する。			
医療技術名	膝前十字靱帯2重束再建術	取扱患者数	111	人
当該医療技術の概要	膝屈筋腱を2重束とし、関節鏡視下に解剖学的に前十字靱帯を再建する。			

医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。			

医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	40	人
当該医療技術の概要	人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			

医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			

医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-YVB療法	取扱患者数	11	人
当該医療技術の概要	重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、narrow band UVBを照射するという治療を併用しており、良好な結果を得ている。			

医療技術名	多汗症のボトックス注射	取扱患者数	8	人
当該医療技術の概要	局所多汗で悩む患者さんは数多く、しかも確実な効果を見込める治療法に乏しい。そのような患者さんに対してボトックスの局所注射を行うことによって良好な効果を得ている。			

医療技術名	重症乾癬に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	乾癬は慢性に経過する炎症性皮膚疾患の代表的なものである。重症な本疾患に対して、生物学的製剤の投与が保険適応となった。当科においても重症例に対して使用しており、良好な効果を得ている。			

医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法をしこうすることによって良好な結果を得ている。			

医療技術名	難治性皮膚疾患に対する大量ガンマグロブリン投与療法	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	水疱症や重症薬疹の症例において、免疫抑制療法のみではコントロール不良の症例に対して大量ガンマグロブリン投与を行い、良好な結果を得ている。			

医療技術名	難治性のアナフィラクトイド紫斑やアトピー性皮膚炎に対する根尖病巣治療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	通常の治療でコントロール不良の症例において、歯性の根尖病巣の有無を検索し、存在する症例においてはこれを積極的に治療を行うことによって良好な結果を得ている。			

医療技術名	難治性潰瘍に対する骨髄露出療法	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	特に末梢の潰瘍で、通常の治療でコントロール不良の症例において、骨髄を露出させることによって、幹細胞の遊走を促進し、治療する試みであり、良好な結果である。			

医療技術名	TEN型重症薬疹の血漿交換療法	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	進行が急速で、ステロイドパルス療法で反応不良な難治症例例では、進行が抑えられ、良好な結果である。			

医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	202	人
当該医療技術の概要	ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたす先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサージャン型手術を開発し、2011年途中より行っている。			
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	17	人
当該医療技術の概要	浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに完治可能であることが知られている。根治性を損なわずに膀胱温存が可能と判断される，転移のない浸潤性膀胱癌患者に対しては，低侵襲な集学的治療(低用量化学放射線療法＋ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清)による膀胱温存療法を行っている.			
医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	58	人
当該医療技術の概要	小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下のリスクがある。術後の腎機能を良好に保つために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	前立腺立体標的針生検	取扱患者数	200	人
当該医療技術の概要	前立腺癌疑いにおけるMRIと立体生検(経直腸生検と経会陰生検の併用)を組み合わせた最高質の生検方法。効率的な癌の検出、検出された癌に対するきめ細かな治療計画が可能となる。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	18	人
当該医療技術の概要	限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療法の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺の左右の片側のみを治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。			
医療技術名	腎癌ICCA療法	取扱患者数	46	人
当該医療技術の概要	インターフェロンαにシメチジン、COX-2阻害剤、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤を加えたI-CCA療法は、転移を有する、あるいは手術を行うことが困難な、進行した腎がんの患者が対象となる。本療法は、分子標的治療薬と同等の効果が期待でき、副作用はより軽度で、かつ低コストな治療である。			
医療技術名	眼内炎に対する眼内液を用いた網羅的PCR診断	取扱患者数	150	人
当該医療技術の概要	眼内炎は細菌、真菌の眼内感染により生じ、数日のうちに失明に至る劇症の疾患であるため、迅速な診断を要する。当科では眼内炎が疑われる患者にブロードレンジPCR法を用いて、微量な眼内液検体から細菌や真菌感染の迅速診断を行っている。			
医療技術名	ヘルペス性虹彩炎に対する眼内液を用いた網羅的PCR診断と新規治療法	取扱患者数	130	人
当該医療技術の概要	マルチプレックスPCR法により、微量な眼内液に対して8種類のヘルペスウイルスの網羅的迅速診断を行っている。また、治療法が未だ確立されていない難治性のCMV虹彩炎に対して、バルガンシクロビル内服とガンシクロビル点眼治療の複合療法を行っている。			
医療技術名	眼内リンパ腫に対する硝子体液を用いた分子免疫学的診断	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	眼内リンパ腫は、ステロイド抵抗性の眼内炎症性疾患との鑑別が難しく、その診断は困難な事が多い。当科では硝子体手術により採取した微量な眼内液検体に対して、免疫グロブリン重鎖遺伝子の単クローン性増幅の検出、リンパ腫特有のサイトカインパターンの検出などの分子免疫学的手法を用いた診断を行っている。			
医療技術名	急性網膜壊死の診断と治療	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	急性網膜壊死はヘルペスウイルスの網膜感染症であり、数日から数週間で網膜壊死による失明に至る。当科では迅速な原因診断のために、眼内液を用いた網羅的PCR法による病原体検索を行っている。また、炎症期の早期硝子体手術、アシクロビル大量静注療法による治療を行っている			
医療技術名	非感染性ぶどう膜炎に対する新しい免疫療法	取扱患者数	42	人
当該医療技術の概要	難治性の非感染性ぶどう膜炎に対して、従来のステロイド薬や免疫抑制剤に加えて、生物製剤であるインフリキシマブの全身投与やアダリムマブの皮下投与、免疫抑制剤であるシロリムスの眼内局所注射などを用い、患者毎に適切な治療法を選択し、行っている。			

医療技術名	眼内リンパ腫の治療	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	未だ治療法が確立されていない眼内リンパ腫に対して、メトトレキサート硝子体注射を用いた眼内化学療法と、メトトレキサート大量静脈内投与による眼外臓器の発症予防治療を行っている。			

医療技術名	強度近視眼の黄斑分離症に対する、黄斑部温存内境界膜剥離法を用いた硝子体手術	取扱患者数	105	人
当該医療技術の概要	強度近視に伴う黄斑分離症手術では、約2割の症例で周術期に黄斑円孔の合併症を生じる。それを回避する目的で、当科では硝子体手術で行う内境界膜剥離の際に、黄斑部内境界膜を温存する新しい手法を開発し、黄斑円孔の発生を予防している。			

医療技術名	黄斑疾患に対する抗VEGF抗体の硝子体内注入療法	取扱患者数	145	人
当該医療技術の概要	網膜や脈絡膜に生じる新生血管や、糖尿病や眼内炎症性疾患で生じる黄斑浮腫は、高度な視力低下の原因となるが、その治療は困難である。当科では、抗VEGF抗体の硝子体内注入療法を行い、従来の治療法では得られなかった高い効果を挙げている。			

医療技術名	非侵襲的な眼球形状解析法	取扱患者数	208	人
当該医療技術の概要	強度近視眼や緑内障眼では特異な眼球形状をしばしば呈するが、その診断は困難である。当科では高侵達光干渉断層計や3D-MRIを用いた非侵襲的な眼球形状解析を行い、正確な病態診断に役立てている。			

医療技術名	外リンパ瘻診断にCTP検査を施行	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	外リンパ瘻は、内耳に生じる瘻孔であり、手術的治療により改善しうる急性感音難聴・めまいの原因となる。その術前診断に、内耳特異タンパクcochlinのアイソフォームであるcochlin-tomoprotein（CTP）が、有用な診断マーカーであることが明らかになっている。外リンパ瘻が疑われる症例の術前あるいは術中にCTPの検査を施行し、その有用性を検証している。			

医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	頭蓋内外にわたる領域の腫瘍性病変の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			

医療技術名	咽頭癌の経口腔的切除術（ELPS）	取扱患者数	34	人
当該医療技術の概要	咽頭の表在癌に対する経口腔的切除術は、低侵襲治療として有用である。先進的な治療であり高度の医療技術が必要である。			

医療技術名	聴器癌の手術治療	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	聴器癌の手術には耳科および頭頸部外科双方の専門的知識と手術技術が必要であり、治療可能施設は限られている。			

医療技術名	頭頸部癌化学放射線療法	取扱患者数	60	人
当該医療技術の概要	頭頸部癌に対する化学放射線療法は、高い効果が得られるが、有害事象も多い。高度の治療管理技術と高度の管理体制の整備が必要である。			

医療技術名	MRIガイド下乳房組織生検	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	MRIのみで描出される乳房腫瘤に対してMRI撮影下で穿刺針を確認しながら生検を行う			

医療技術名	MRエンテログラフィー	取扱患者数	57	人
当該医療技術の概要	洗腸剤を飲用後、小腸内を液体で充満させた状態でMRIを撮像する			

医療技術名	NBCAを用いた血管塞栓術	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	出血性病変に対してNBCAを用いて血管内塞栓術を施行する			

医療技術名	静脈サンプリング(副腎静脈や海綿静脈洞など)	取扱患者数	25	人
当該医療技術の概要	標的臓器の静脈にカテーテルを進めて採血を行い、ホルモンなどを定量する			

医療技術名	胸腹部大動脈手術時の脊髄保護のための硬膜外脊髄冷却法	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	胸腹部大動脈手術時に大動脈を遮断することによって脊髄の虚血をきたし、下半身麻痺に至ることがある。当該方法は、事前に挿入した硬膜外カテーテルから、冷却した生理食塩水を注入して脊髄を冷却することによって全身を冷却することなく大動脈遮断時の脊髄保護を行うものである。			

医療技術名	神経筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	235	人
当該医療技術の概要	当科では、本学に受診された患者さんに必要な遺伝子診断を行っている。さらに、国内・海外からの依頼も受けており、2012年度は国内からの依頼検体のみで188名(一人につき最大6個の異なる疾患の遺伝子変異を検査)の患者、海外50名につき、1患者当たり6種類までの遺伝子診断を行うこともあるため、のべ600件に上る遺伝子診断を行った。			

医療技術名	多系統萎縮症に対する先進治療:リファンピシン療法	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	多系統萎縮症は厚生労働省が定める特定疾患で、有効な根本的治療法が全くない神経難病である。多系統萎縮症のモデルマウスにおいて、抗結核薬のリファンピシンが有効であるという知見が2008年に米国から報告されたのを受け、当施設では世界で初めて同薬を用いた臨床試験を開始し、これまでに20名の患者での投与と長期経過観察診療を行っている。			

医療技術名	球脊髄性筋萎縮症の長期予後に対する抗アンドロゲン療法(ゾラデックス)	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	筋脊髄性筋萎縮症は、X染色体劣性遺伝型の運動ニューロン疾患であり、厚労省が定める特定疾患である。患者は脚や上肢、舌や喉の筋肉が衰え、徐々に動けなくなる。この疾患患者の初期にはある程度抗アンドロゲン療法が有効であることが知られているが、長期的な治療を行っている施設はない。当科では世界でも例を見ない数の本疾患患者について、抗アンドロゲン療法を長期間行い、経過観察を行っており、効果が得られている患者も多い。			

医療技術名	脳表シデローシスに対する硬膜瘻孔閉塞術、および鉄キレート剤デフェリプロン投与	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	脳表シデローシスは種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にヘモジデリンが沈着し、中枢神経障害を引き起こす難病である。これまで治療法が全く無かったが、脊髄硬膜の欠損部を同定し瘻孔閉鎖術などの修復術を行うことの有効性が報告され、当院でもすでに2例の患者で瘻孔閉鎖術を施行し、1例は血管増強剤の内服治療を行っている。更に、脳内の酸化反応を沈静化させるため、脳内に沈着した鉄を除去するとされている鉄キレート剤による内服療法を開始している。			

医療技術名	補助人工心臓	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	重症心不全症例でかつ大動脈バルーンパンピング(IABP)や経皮的心肺補助(PCPS)による治療に抵抗性の症例に対し補助人工心臓を積極的に検討し留置する。			

医療技術名	埋込型補助人工心臓	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	心臓移植待機中の重症心不全症例に対する体内埋込型補助人工心臓を留置する。			

医療技術名	局所進行肺癌に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	非小細胞肺癌の局所進行病変(cT3-4, cN2)に対して術前化療放射線併用療法後の肺切除術			

医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術を含む集学的治療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術・抗癌剤化学療法・放射線治療からなる3者療法			

医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中温熱抗癌剤灌流療法	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中温熱抗癌剤灌流、術後抗癌剤化学療法の集学的治療			

医療技術名	マイクロサージャリー	取扱患者数	79	人
当該医療技術の概要	手術用顕微鏡を用いて、微小血管吻合や神経吻合を行い、遊離皮弁移植や、知覚再建を行う。			

医療技術名	顔面神経麻痺に対する動的再建	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	神経血管柄付き遊離筋弁移植、筋膜移植などを用いて笑いの再建、顔面対称性獲得を行っている。			

医療技術名	一次乳房再建	取扱患者数	19	人
当該医療技術の概要	乳腺外科・放射線科と協力して乳がん切除と乳房再建を同時に行う。遊離腹部皮弁、広背筋皮弁や人工乳房で再建している。遊離腹部皮弁術前には放射線科協力のもと詳細なシミュレーションを行っている。			

医療技術名	頭蓋底再建	取扱患者数	8	人
当該医療技術の概要	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科とともに従来根治治療が困難であった部位に生じた腫瘍の切除・再建を行っている。			

医療技術名	赤外観察カメラシステムを用いた各種皮弁の血行評価、リンパ管走行評価	取扱患者数	32	人
当該医療技術の概要	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、血管外科の協力のもと、より安全・確実に皮弁挙上、リンパ管走行確認ができるように上記システムを利用して手術を行っている。			

医療技術名	虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	45	人
当該医療技術の概要	血管外科、放射線科、内科、皮膚科と協力して虚血のために通常であれば下肢を温存できない症例に対して血管内治療、バイパス治療、血管再生治療、遊離皮弁の技術を用いて、下肢を温存する治療を行う。			

医療技術名	センチネルリンパ節生検	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	皮膚悪性腫瘍手術で不必要なリンパ節郭清手術を回避するために、センチネルリンパ節生検を行う。保険適応となった悪性黒色腫以外にも学内倫理委員会の承認を得て有棘細胞癌、乳房外ページェット病に対して行っている。			

医療技術名	フローサイトメトリー法を用いた白血病細胞のNotch蛋白の解析	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	白血病細胞の増殖に深く関与することが明らかになったNotch蛋白を、日常臨床検査として用いられているフローサイトメトリー法によって解析する方法を開発し、診断に有用であることを示した。			

医療技術名	Qプローブ法を用いたJAK2遺伝子変異の検出法の開発	取扱患者数	16	人
当該医療技術の概要	真性多血症の原因遺伝子であるJAK2遺伝子変異を検出するために、従来はコストのかかるシークエンス法が必要であったが、PCR法を応用した簡便なQプローブ法による検出方法を開発した。			

医療技術名	持続血液透析濾過	取扱患者数	26	人
当該医療技術の概要	急性腎不全の重症例や全身状態の悪い症例に対して行われる血液浄化法で,血液透析濾過を24時間持続的に行う。少量ずつ透析を持続的に行うため、全身状態に与える影響が少なく、血管外物質の除去効率が高い。			

医療技術名	血漿交換	取扱患者数	34	人
当該医療技術の概要	血液を血漿分離器で血球成分と血漿成分に分離した後に、病気の原因物質を含む血漿を廃棄して、それと同じ量の健常な方の血漿(新鮮凍結血漿)、もしくはアルブミン製剤を入れて置き換える治療法。劇症肝炎、肝不全、血栓性血小板減少性紫斑病、ステロイドや免疫抑制剤の治療の効果が少ない活動性の強い膠原病(全身性紅斑性エリトマトーデスなど)などが適応となる。			

医療技術名	血漿吸着	取扱患者数	17	人
当該医療技術の概要	血液を取り出しそのまま直接カラムに通し、 血液中の病因物質を吸着器に吸着させ、除去し、また血液を身体に返す治療法。当院では家族性高コレステロール血症に対し、LDL吸着を行っている。			
医療技術名	エンドトキシン吸着	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	エンドトキシン血症に伴う重症病態の改善のため、エンドトキシンを選択的に吸着除去する吸着型血液浄化器(トレミキシン)を用いた血液浄化療法。			
医療技術名	顆粒球、リンパ球吸着	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患において、活性化した顆粒球やリンパ球を吸着療法により体外へ除去し、腸管での炎症部位に動員される白血球を減少させ、炎症を鎮静化する治療法。			
医療技術名	腹水濾過濃縮再静注	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	種々の治療法(利尿剤投与等)では治療困難な「難治性腹水症」患者の腹水を取り出し、それを濾過及び濃縮し、患者に再静注する治療法			
医療技術名	脳血管疾患片麻痺患者に対する体幹移動訓練	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	脳血管疾患患者に坐位をとらせ、左右へ上肢をできるだけ伸ばすリーチ動作を行わせ体幹の安定を図る。この際体幹の動きをカメラで撮影し定量化する			
医療技術名	スポーツ早期競技復帰に向けた軟部組織外傷に対する高気圧酸素治療の実施	取扱患者数	159	人
当該医療技術の概要	捻挫、肉離れ等の軟部組織外傷の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが複数あり、オリンピック選手やトップアスリートも含め、一日でも早期にスポーツ競技復帰を望む選手からの社会的要請は高い。本学では、土日祝日も含めた高気圧酸素治療の実施や急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供といえる。			
医療技術名	難治性疾患である遅発性放射線障害に対する高気圧酸素治療の実施	取扱患者数	34	人
当該医療技術の概要	遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性であり、保存的治療に抵抗する。このため、例えば出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの外科的処置を要することも多いが、高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。しかしながら、全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。			
医療技術名	アスリートに対する膝関節靱帯再建術後急性期から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションおよびリコンデショニング	取扱患者数	54	人
当該医療技術の概要	膝関節靱帯損傷は代表的なスポーツ傷害であり、元の競技レベルへの復帰には再建術を要するケースが多い。競技復帰には術後早期からの適切な診断と、専門的なリハビリテーションおよびコンディショニングが不可欠である。本学では、整形外科と連携しながら術前および術当日からスポーツ復帰に至るまで、再損傷予防とパフォーマンスの向上に向けた科学的根拠に基づくアプローチを展開できる診療・研究体制を整えている。			
医療技術名	血管再生(新生)療法	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	老年病内科が主たる診療科として取り組んでいる先進医療。輸血部では末梢血に動員された血管幹細胞の成分採血による採取と、濃縮を実施している。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	16	人
当該医療技術の概要	血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	12	人
当該医療技術の概要	血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			

医療技術名	同種骨髄の採取・移植	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			

医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では移植細胞の評価を担当している。			

医療技術名	gliomaのFISH法による分子病理学的診断	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	1q25プローブ/1p36 プローブを用いてoligodendrogliomaとastrocytomaの鑑別を行い、化学療法・放射線治療感受性の予測を行っている。			

医療技術名	In situ hybridization法によるウイルス感染の分子病理学的診断	取扱患者数	144	人
当該医療技術の概要	EBウイルスのRNA(EBER)を特異的プローブで検出し、悪性リンパ腫を中心として分子病理学診断を行っている。			

医療技術名	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion (PMX):エンドトキシン吸着療法	取扱患者数	17	人
当該医療技術の概要	グラム陰性菌感染によるエンドトキシンショックが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、エンドトキシンの吸着剤であるポリミキシンBを不溶性の線維に固定したカラム(トレミキシン)に灌流させ、エンドトキシンを吸着除去した後、血液を体内に戻す血液浄化療法である。			

医療技術名	Percutaneous cardiopulmonary support system (PCPS):経皮的心肺補助	取扱患者数	12	人
当該医療技術の概要	緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に送血閉鎖回路による補助循環である。			

医療技術名	Intraaortic baloon pumping (IABP):大動脈内バルーンパンピング	取扱患者数	19	人
当該医療技術の概要	急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下行大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍手津を容易にする効果を有する。			

医療技術名	Continuous hemodiafiltration (CHDF):持続血液濾過透析	取扱患者数	36	人
当該医療技術の概要	急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を除水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する。			

医療技術名	Extra corporeal membrane oxygenation (ECMO):体外膜型酸素化装置	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	ARDSや重症肺炎(細菌性、ウイルス性)、肺外傷などの、低酸素血症や高二酸化炭素血症の重症呼吸不全が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を膜型人工肺を用いて酸素化し、中心静脈に返す補助循環である。長期体外循環による呼吸補助を行うことにより生体肺を休ませ、肺の回復を待つ治療法である。			

医療技術名	Plasma exchange (PE):血漿交換	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	劇症肝炎、多発性骨髄腫、薬物中毒、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱随性多発神経炎などが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し血漿成分だけを分離し、その血漿成分は破棄する。その代替として新鮮凍結血漿あるいは5%アルブミン製剤で補う血液浄化療法である。血漿中に存在する病因関連物質や病態を悪化させている物質を除去する治療法である。			

医療技術名	左心補助人工心臓(LVAS)	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	治療抵抗性の急性重症心不全と末期的慢性重症心不全の場合に適応となる。左室から脱血し、血液ポンプを用いて上行大動脈に送血することにより、左室ポンプ機能をほぼ100%代行できる補助循環装置である。心臓移植の待機で使用する。			

医療技術名	右心補助人工心臓(RVAS)	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	左心補助人工心臓駆動下において内科的治療に反応しない右心不全の場合に適応となる。右房から脱血し、血液ポンプを用いて肺動脈に送血することのより、右室ポンプ機能を100%代行できる補助循環装置である。			

医療技術名	院外心肺停止患者の蘇生後脳症に対する脳低温療法	取扱患者数	16	人
当該医療技術の概要	院外心肺停止で搬送される患者さんが蘇生に成功した際、ただちに体温を34度まで下げて24時間維持するもの。低酸素に暴露された脳のダメージを最小限できることが期待され、心肺蘇生の国際ガイドラインでもそのエビデンスが支持されている。当院ではER発足以来積極的に取り入れ、院外心肺停止患者さんの社会復帰に成果を上げている。			

医療技術名	経皮的人工心肺(PCPS)を用いた院外心肺停止患者に対する心肺蘇生	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	院外心肺停止で搬送される患者さんに対し、経皮的人工心肺装置PCPSを用いて蘇生中の脳酸素灌流を維持する蘇生法。低酸素に暴露された脳のダメージを最小限できることが期待され、適応症例を十分に吟味して院外心肺停止患者さんの神経予後に一定の成果を上げている。			

医療技術名	腹部コンパートメント症候群に対するOpen Abdominal Management	取扱患者数	9	人
当該医療技術の概要	緊急開腹手術を要する患者さんのうち、一期的な閉腹により術後管理に困難が予想される症例に対してはOpen Abdominal Managementによる段階的閉腹を心がけている。1週間以上の集中治療管理を要するためにきめの細かい管理を要する。			

医療技術名	高感度迅速多項目ウイルス定性測定	取扱患者数	1578	人
当該医療技術の概要	HSV1, HSV2, VZV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, Parvovirus B19, HBVの12種類のウイルスを2時間以内に10 copy/sampleの感度で効率良く測定するウイルス定性検査。院内における各種感染症に加えて、再生医療製剤の品質保証に使用している。			

医療技術名	高感度ウイルス定量システム	取扱患者数	969	人
当該医療技術の概要	HSV1, HSV2, VZV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, Parvovirus B19, HBV, Adenovirusなどのウイルスについての PCRを用いた定量検査。院内における各種感染症に加えて、再生医療製剤の品質保証に使用している。			

医療技術名	Short tamdem repeat法を用いた個人識別システム	取扱患者数	約20	人
当該医療技術の概要	Short tamdem repeat法を用い高感度に移植後のキメリズム状態を測定する。			

医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	130	人
当該医療技術の概要	院内臨床各科との連携によって各種遺伝性疾患の遺伝リスクの説明、家族に対する遺伝リスクの説明を行っている。出生前診断の一環としての羊水染色体検査や乳癌・大腸癌に対する遺伝子検査の実施およびその説明を行っている。			

医療技術名	神経難病に対する発症前遺伝子診断	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	ハンチントン病・脊髄小脳変性症などの遺伝性神経難病は現在のところ確立した治療法がなく、発症者の家族の遺伝的リスクを有するクライアントに対する遺伝子診断は慎重に行う必要がある。しかし、遺伝的リスクを持つ患者のニーズは高く、当科では神経内科・精神神経科との連携のもと、医学部倫理審査委員会の承認を得ながら発症前の遺伝子検査を行っている。			

医療技術名	C型肝炎患者に対するIL28受容体多型遺伝子検査	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	C型慢性肝炎インターフェロン療法の成功(ウイルス排除)率と強く関連するIL28Bの遺伝子多型検査を開始。インターフェロン療法の治療法選択に大きく貢献している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱患者数	疾　患　名	取扱患者数
・ベーチェット病	168人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	102人	・広範脊柱管狭窄症	17人
・重症筋無力症	98人	・原発性胆汁性肝硬変	24人
・全身性エリテマトーデス	340人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	49人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	47人
・サルコイドーシス	210人	・原発性免疫不全症候群	82人
・筋萎縮性側索硬化症	45人	・特発性間質性肺炎	80人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	310人	・網膜色素変性症	30人
・特発性血小板減少性紫斑病	61人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	46人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	177人	・神経線維腫症	14人
・大動脈炎症候群	140人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	48人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0人
・天疱瘡	48人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8人
・脊髄小脳変性症	180人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	173人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	1人
・悪性関節リウマチ	31人	・脊髄性筋委縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病）	72人	・球脊髄性筋委縮症	18人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	22人
・アミロイドーシス	9人	・肥大型心筋症	4人
・後縦靱帯骨化症	90人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・ミトコンドリア病	11人
・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	206人	・リンパ脈管筋腫症（LAM）	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	26人	・重症多形滲出性紅斑（急性期）	0人
・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	29人	・黄色靱帯骨化症	7人
・多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）	60人	・間脳下垂体機能障害（PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症）	53人
・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2人		

（注）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術 （尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍（精巣がんから転移したものに限る。）又は骨盤リンパ節腫瘍（泌尿器がんから転移したものに限る。）	・
・超音波骨折治療法 （四肢の骨折（治療のために手術中に行われるものを除く。）のうち、観血的手術を実施したもの（開放性骨折又は粉砕骨折に係るものを除く。）に係るものに限る。）	・
・膀胱水圧拡張術	・
・人工括約筋を用いた尿失禁手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法（平成六年厚生省告示第五十四号）に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週に5回程度、症例検討会を実施している。 （定例会は週3回。その他、随時個別に臨床部門と月8回以上開催）
部検の状況	部検症例数　59例　／　部検率　14.10%

（様式11）　　高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1　研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（千円）	補助元又は委託元	
メタボリックシンドロームにおける内因性リガンドと病原体センサーの機能的意義の解明	小川　佳宏	先端医療開発学講座分子内分泌代謝学分野	38,870	補	日本学術振興会
ヒト固形癌の休眠型癌幹細胞とそのニッチ特性の解明	田中　真二	先端医療開発学講座肝胆膵・総合外科学分野	37,310	補	日本学術振興会
ALSサルモデル、患者サンプルを用いたTDP―43病態の検索	横田　隆徳	認知行動医学講座脳神経病態学分野	650	補	日本学術振興会
優性遺伝型脊髄小脳変性症のハイスループット遺伝子変異探索	石川　欽也	脳・神経・精神診療科神経内科	3,770	補	日本学術振興会
独自の培養技術を用いた大腸上皮細胞機能解析と臨床応用技術開発	渡辺　守	器官システム制御学講座消化器病態学分野	32,110	補	日本学術振興会
腎臓膜輸送体を制御する新規細胞内刺激伝達系の解明	内田　信一	器官システム制御学講座腎臓内科学分野	9,360	補	日本学術振興会
TDP―43過剰発現による孤発性ALSのサルモデル作製	横田　隆徳	認知行動医学講座脳神経病態学分野	14,430	補	日本学術振興会
新たな腎臓膜輸送体制御法の開発	佐々木　成	器官システム制御学講座腎臓内科学分野	11,440	補	日本学術振興会
消化器癌の難治性メカニズムに基づいた先端的治療開発	田中　真二	先端医療開発学講座肝胆膵・総合外科学分野	13,650	補	日本学術振興会
難聴症例のミトコンドリア遺伝子変異の網羅的解析法確立と内耳細胞内の変異定量解析	喜多村　健	認知行動医学講座耳鼻咽喉科学分野	3,380	補	日本学術振興会
腎臓における新規の血圧調節機構WNK―NCCシグナル伝達系の解明	頼　建光	血液浄化療法部	4,420	補	日本学術振興会
加齢黄斑変性発症の四次元時空的解明と分子標的治療の確立	大野　京子	認知行動医学講座眼科学分野	5,460	補	日本学術振興会
DNAメチル化に着目したメタボリックメモリーの分子機構の解明と医学応用	小川　佳宏	先端医療開発学講座分子内分泌代謝学分野	5,590	補	日本学術振興会
単一遺伝子異常による免疫学的寛容破綻の分子機構に関する研究	森尾　友宏	生体環境応答学講座発生発達病態学分野	5,330	補	日本学術振興会
DNA損傷応答機構を中心とした発がん制御機構の解析と、その応用による治療法の開発	水谷　修紀	生体環境応答学講座発生発達病態学分野	5,590	補	日本学術振興会
悪性脳腫瘍のDNA合成能の分子イメージング―新規PET薬剤の世界初の臨床試験―	成相　直	脳・神経・精神診療科脳神経外科	4,810	補	日本学術振興会
頭蓋底外科における低侵襲かつ安全な頭蓋顔面アプローチ法の確立に関する研究	岸本　誠司	顎顔面頸部機能再建学講座頭頸部外科学分野	1,820	補	日本学術振興会
急性肺傷害における肺組織幹細胞系細胞を用いた細胞治療開発への基礎研究	内田　篤治郎	脳・神経・精神診療科麻酔・蘇生・ﾍﾟｲﾝｸﾘﾆｯｸ科	2,470	補	日本学術振興会
食道扁平上皮癌の新たな治療体系の構築を目指した統合的ゲノム・エピゲノム解析	河野　辰幸	器官システム制御学講座食道・一般外科学分野	4,160	補	日本学術振興会
食道扁平上皮癌の新たな治療体系の構築を目指した統合的ゲノム・エピゲノム解析	河野　辰幸	器官システム制御学講座食道・一般外科学分野	3,640	補	日本学術振興会
グルタミン酸伝達調節による難治性抑うつ状態の治療法開発に関する研究	西川　徹	認知行動医学講座精神行動医科学分野	4,160	補	日本学術振興会
グルタミン酸伝達調節による難治性抑うつ状態の治療法開発に関する研究	西川　徹	認知行動医学講座精神行動医科学分野	3,640	補	日本学術振興会
HCV蛋白とインターフェロン系との相互作用のFRET／BRET解析	田坂　めぐみ	器官システム制御学講座消化器病態学分野	1,300	補	日本学術振興会
炎症性腸疾患における発癌調節機構の解明と臨床応用への基盤樹立	長沼　誠	器官システム制御学講座消化器病態学分野	910	補	日本学術振興会
受容体型チロシンキナーゼROR1による癌化機構解明とその治療応用	福田　哲也	先端医療開発学講座血液内科学分野	1,300	補	日本学術振興会
好塩基球を標的とした慢性痒疹・痒疹反応の機序の解析と新規治療の開発	横関　博雄	生体環境応答学講座皮膚科学分野	650	補	日本学術振興会
動脈疾患における歯周病の関与と血小板凝集の影響について	井上　芳徳	器官システム制御学講座食道・一般外科学分野	650	補	日本学術振興会
ポリカーボネートポリウレタンを用いた脳動脈瘤塞栓物質の開発	吉野　義一	認知行動医学講座血管内治療学分野	1,040	補	日本学術振興会
ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発	根本　繁	認知行動医学講座血管内治療学分野	910	補	日本学術振興会
末梢神経刺激―脊髄誘発磁界測定を用いた完全に非侵襲的脊髄機能診断法の開発	川端　茂徳	先端医療開発学講座整形外科学分野	1,430	補	日本学術振興会
自己組織を利用した欠損組織修復と血流回復を目指した新規新生児外科治療戦略	久保田　俊郎	器官システム制御学講座生殖機能協関学分野	910	補	日本学術振興会
マウス蝸牛microRNA発現解析による老人性難聴発症機構の解明	野口　佳裕	感覚・皮膚・運動機能診療科耳鼻咽喉科	1,430	補	日本学術振興会
急性腎障害における心房性ナトリウム利尿ペプチドの腎保護作用メカニズムの研究	三高　千恵子	全人的医療開発学講座救命救急医学分野	650	補	日本学術振興会
生物学的製剤及び分子標的薬投与下の重篤感染症、日和見感染症に関する薬剤疫学的研究	田中　みち	生体環境応答学講座膠原病・ﾘｳﾏﾁ内科学分野	2,340	補	日本学術振興会
症例に応じた分子標的治療を目指した急性白血病幹細胞の定量と特性の検査法の開発	東田　修二	全人的医療開発学講座臨床検査医学分野	1,430	補	日本学術振興会
EBV陽性TおよびNK細胞リンパ増殖症発症機構の解明と治療法の開発	新井　文子	先端医療開発学講座血液内科学分野	1,430	補	日本学術振興会
カンナビノイドによる炎症抑制作用の解明と関節リウマチの新規治療開発	南木　敏宏	薬害監視学講座薬害監視学分野	1,430	補	日本学術振興会
B細胞、NK細胞、樹状細胞欠損を伴う原発性免疫不全症の病態解析と原因遺伝子の同定	今井　耕輔	小児・周産期地域医療学講座（小児科）	1,820	補	日本学術振興会
高分解能MR内視鏡の開発とその臨床的有用性に関する研究	山田　一郎	顎顔面頸部機能再建学講座腫瘍放射線医学分野	1,040	補	日本学術振興会
神経栄養因子と上皮成長因子（EGF）受容体制御による末梢神経再生	若林　良明	先端医療開発学講座整形外科学分野	1,560	補	日本学術振興会
植物ホルモンによるヒト血管内皮機能制御に関する基礎的検討	尾林　聡	器官システム制御学講座生殖機能協関学分野	1,040	補	日本学術振興会
蝸牛外有毛細胞動毛形成の聴覚における影響の解析	戸叶　尚史	認知行動医学講座耳鼻咽喉科学分野	1,300	補	日本学術振興会
遺伝子多様性データを解明する統合的分析とその発展	冨田　誠	臨床試験管理センター	1,950	補	日本学術振興会
複数の機能的マーカーを用いた炎症性腸疾患における腸炎惹起性メモリー幹細胞の探求	根本　康宏	器官システム制御学講座消化器病態学分野	2,080	補	日本学術振興会
脊髄小脳失調症31型における異常RNA分子標的同定	石川　欽也	脳・神経・精神診療科神経内科	3,770	補	日本学術振興会
恒常的活性化チロシンキナーゼを発現した造血器腫瘍に対する統合的分子標的療法の開発	三浦　修	先端医療開発学講座血液内科学分野	2,340	補	日本学術振興会
microRNAを標的とした関節リウマチの新規治療法開発と新病態機序解明への挑戦	宮坂　信之	生体環境応答学講座膠原病・ﾘｳﾏﾁ内科学分野	4,290	補	日本学術振興会
転写因子Sf1の卵巣における発現機構および機能の分子機構の解明	鹿島田　健一	生体環境応答学講座発生発達病態学分野	2,600	補	日本学術振興会
凝固異常および酸化ストレスの視点からGVHD・慢性炎症を捉えなおす基礎研究	長澤　正之	地域小児医療調査研究講座（東京都）	2,080	補	日本学術振興会
PETおよび光学計測を用いた、再生医療における神経回路再生過程の生体内評価	稲次　基希	脳・神経・精神診療科脳神経外科	2,470	補	日本学術振興会

小計50件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（千円）	補助元又は委託元	
非創傷部位への陰圧療法の可能性を探る　末梢神経再生・移植脂肪生着増加を目指して	森　弘樹	顎顔面頸部機能再建学講座形成・再建外科学分野	3,250	補	日本学術振興会
ナノスペクトＣＴを用いた、筋弁・脂肪弁における血流と体積の経時的変化の定量	岡崎　睦	顎顔面頸部機能再建学講座形成・再建外科学分野	3,120	補	日本学術振興会
高齢者蝸牛細胞の遺伝子発現解析による老人性難聴の病態解明	喜多村　健	認知行動医学講座耳鼻咽喉科学分野	650	補	日本学術振興会
腸上皮バイオカプセルを用いた新規薬剤デリバリーシステムの開発	渡辺　守	器官システム制御学講座消化器病態学分野	1,300	補	日本学術振興会
蛋白相互作用阻害によるＷＮＫキナーゼ阻害薬の効率的スクリーニング	内田　信一	器官システム制御学講座腎臓内科学分野	1,690	補	日本学術振興会
顆粒球系細胞の活性酸素産生を負に制御する分子の研究	森尾　友宏	生体環境応答学講座発生発達病態学分野	1,690	補	日本学術振興会
骨と血圧調節機構のクロストークの解明	大川　淳	先端医療開発学講座整形外科学分野	1,300	補	日本学術振興会
制御性Ｔ細胞によるぶどう膜炎に対する新しいパーソナルメイド免疫療法の開発	望月　學	認知行動医学講座眼科学分野	1,820	補	日本学術振興会
アミロイドｂを標的とした加齢黄斑変性・緑内障の早期診断・治療に向けた新規戦略法	大野　京子	認知行動医学講座眼科学分野	1,560	補	日本学術振興会
３本鎖核酸を用いた画期的核酸医薬の開発	横田　隆徳	認知行動医学講座脳神経病態学分野	3,900	補	日本学術振興会
新規二本鎖アンチセンス核酸を用いた画期的遺伝子治療法の開発	仁科　一隆	認知行動医学講座脳神経病態学分野	3,900	補	日本学術振興会
分泌発現系ｃＤＮＡライブラリを用いた細胞性免疫責任抗原同定への新しいアプローチ法	江石　義信	器官システム制御学講座人体病理学分野	2,080	補	日本学術振興会
蛋白相互作用阻害による新規高血圧治療薬の開発	頼　建光	血液浄化療法部	1,170	補	日本学術振興会
小胞体水チャネルの病態生理学的役割の解明	佐々木　成	器官システム制御学講座腎臓内科学分野	1,950	補	日本学術振興会
「生理的炎症」の概念の確立と機能的意義の解明	小川　佳宏	先端医療開発学講座分子内分泌代謝学分野	3,770	補	日本学術振興会
抗好中球細胞質抗体関連血管炎のＮＥＴｓ形成を標的とする新規治療法の開発	針谷　正祥	薬害監視学講座薬害監視学分野	1,820	補	日本学術振興会
ＡＬＳ霊長類モデルによる経シナプス逆行性伝播機序の解明	大久保　卓哉	認知行動医学講座脳神経病態学分野	9,490	補	日本学術振興会
ＡＬＳ霊長類モデルによる経シナプス逆行性伝播機序の解明	大久保　卓哉	認知行動医学講座脳神経病態学分野	4,160	補	日本学術振興会
白血病幹細胞に対する骨髄微小環境を模した抗白血病薬感受性検査法の開発	伊藤　真以	全人的医療開発学講座臨床検査医学分野	1,040	補	日本学術振興会
ＰＭＰ２２の難聴発症における分子機構の解明	高橋　正時	感覚・皮膚・運動機能診療科耳鼻咽喉科	780	補	日本学術振興会
Ｎｏｔｃｈリガンド・受容体システムによる腸管粘膜維持再生機構の解析	森尾　純子（秋山純子	器官システム制御学講座消化器病態学分野	1,560	補	日本学術振興会
脳動脈新生の制御による脳梗塞治療法開発の基礎的研究	石橋　哲	脳・神経・精神診療科神経内科	1,560	補	日本学術振興会
ＣＣＲ９を介する関節リウマチ病態形成の分子機構の解明とその阻害による新規治療開発	渡部　香織	薬害監視学講座薬害監視学分野	1,950	補	日本学術振興会
視床皮質神経回路の発達を制御する遺伝子の統合失調症関連解析および死後脳研究	上里　彰仁	認知行動医学講座精神行動医科学分野	1,950	補	日本学術振興会
培養大腸上皮細胞への遺伝子導入技術の開発	油井　史郎	器官システム制御学講座消化器病態学分野	2,080	補	日本学術振興会
インスリンと塩分感受性高血圧をつなぐＷＮＫキナーゼ	蘇原　映誠	血液浄化療法部	2,080	補	日本学術振興会
生体の栄養センサー・レプチンによる炎症免疫調節の分子機構	田中　都	先端医療開発学講座分子内分泌代謝学分野	2,600	補	日本学術振興会
関節リウマチにおける病的滑膜線維芽細胞の起源の同定と治療応用の検討	溝口　史高	生体環境応答学講座膠原病・リウマチ内科学分野	2,470	補	日本学術振興会
精神異常発現薬応答性非翻訳ＲＮＡとそのターゲット遺伝子に着目した統合失調症の解明	治徳　大介	認知行動医学講座精神行動医科学分野	2,600	補	日本学術振興会
緻密質、多孔質ポリウレタンを組み合わせた新しい骨欠損補填材料の開発	吉井　俊貴	先端医療開発学講座整形外科学分野	2,080	補	日本学術振興会
軟部肉腫治療の国際比較と再発を防ぐ治療戦略	澤村　千草	先端医療開発学講座整形外科学分野	2,600	補	日本学術振興会
再生療法を利用したリンパ浮腫に対する新規治療開発	須藤　乃里子	器官システム制御学講座生殖機能協関学分野	2,210	補	日本学術振興会
創始者効果に着目した優性遺伝性難聴遺伝子解析法の確立	西尾　綾子	感覚・皮膚・運動機能診療科耳鼻咽喉科	1,040	補	日本学術振興会
アレルギー性鼻炎の発症・増悪における骨髄環境の関連性の解明	鈴木　康弘	認知行動医学講座耳鼻咽喉科学分野	1,690	補	日本学術振興会
耳石欠損マウスによる耳石形成・吸収メカニズムの解明	本田　圭司	感覚・皮膚・運動機能診療科耳鼻咽喉科	650	補	日本学術振興会
脳動脈新生の賦活による急性期脳梗塞に対する新規治療法の開発	三木　一徳	認知行動医学講座血管内治療学分野	1,560	補	日本学術振興会
発達期の脳に対する麻酔薬の影響	山内　麻衣子	脳・神経・精神診療科麻酔・蘇生・ペインクリニック科	1,560	補	日本学術振興会
関節リウマチ患者登録システムを用いた生物学的製剤の長期安全性に関する薬剤疫学研究	酒井　良子	薬害監視学講座	1,560	補	日本学術振興会
ＤＮＡメチル化に着目したメタボリックメモリーの分子機構の解明と医学応用	小川　佳宏	先端医療開発学講座分子内分泌代謝学分野	1,300	補	日本学術振興会
がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究-診療動向と治療成績の変化-	杉原　健一	腫瘍外科学分野	200	補	厚生労働省
慢性活動性EBウイルス感染症の発症機構解明と新規治療法開発に関する研究	新井　文子	血液内科学分野	900	補	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	石原　正一郎	神経内科	1,000	補	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	稲瀬　直彦	統合呼吸器病学分野	700	補	厚生労働省
血液免疫系細胞分化障害による疾患の診断と治療に関する調査研究	今井　耕輔	小児・周産期地域医療学講座	4,000	補	厚生労働省
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	今井　耕輔	小児・周産期地域医療学講座	4,000	補	厚生労働省
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	今井　耕輔	小児・周産期地域医療学講座	1,000	補	厚生労働省
視覚系の稀少難治性疾患群に関する症例データベース構築	大野　京子	眼科学分野	2,000	補	厚生労働省
多施設ヒト幹細胞臨床研究による3次元再生皮下軟骨の有効性確認	岡崎　睦	形成外科学分野	3,000	補	厚生労働省
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	岡本　隆一	消化管先端治療学講座	500	補	厚生労働省
肝硬変に対する細胞治療法の臨床的確立とそのメカニズムの解明	小川　佳宏	分子内分泌代謝学分野	2,500	補	厚生労働省

小計50件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（千円）	補助元又は委託元		
遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究	喜多村　健	耳鼻咽喉科学分野	1,000	補	厚生労働省	
慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立に対する研究	倉田　二郎	麻酔・蘇生・ﾍﾟｲﾝｸﾘﾆｯｸ科	500	補	厚生労働省	
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	上阪　等	膠原病・リウマチ内科学分野	1,000	補	厚生労働省	
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	佐々木　成	腎臓内科学分野	1,000	補	厚生労働省	
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験	杉原　健一	腫瘍外科学分野	400	補	厚生労働省	
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	杉原　健一	腫瘍外科学分野	400	補	厚生労働省	
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	杉原　健一	腫瘍外科学分野	500	補	厚生労働省	
WNKキナーゼをターゲットとしたCKD進展阻止のための新規治療薬の開発と最適降圧薬選択法の確立	蘇原　映誠	血液浄化療法部	5,000	補	厚生労働省	
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	高瀬　博	眼科学分野	1,000	補	厚生労働省	
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	田中　真二	肝胆膵・総合外科学分野	3,000	補	厚生労働省	
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	冨田　誠	臨床試験管理センター	1,000	補	厚生労働省	
RAS関連自己免疫性リンパ球増殖症候群様疾患（RALD）の実態調査および病態病因解析	長澤　正之	地域小児医療調査研究講座（東京都）	500	補	厚生労働省	
第七次看護職員需給見通し期間における看護職員受給数の推計手法と把握に関する研究	伏見　清秀	医療政策情報学分野	150	補	厚生労働省	
医療計画を踏まえた医療の連携体制構築に関する評価に関する研究	伏見　清秀	医療政策情報学分野	650	補	厚生労働省	
リアルタイムfMRIによるバイオフィードバック法を用いた統合失調症の認知リハビリテーション	松島　英介	心療・緩和医療学分野	200	補	厚生労働省	
プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発	水澤　英洋	脳神経病態学分野	10,000	補	厚生労働省	
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	水澤　英洋	脳神経病態学分野	1,000	補	厚生労働省	
RAS関連自己免疫性リンパ球増殖症候群様疾患（RALD）の実態調査および病態病因解析	水谷　修紀	発生発達病態学分野	500	補	厚生労働省	
次世代型IL-6受容体抗体使用時の炎症マーカーとしてのLRG定量キットの開発と臨床応用	南木　敏宏	薬害監視学講座	1,500	補	厚生労働省	
HTLV-1感染に関連する非ATL非HAM希少疾患の実態把握と病態解明	望月　學	眼科学分野	1,000	補	厚生労働省	
遺伝性貧血の病態解明と診断法の確立に関する研究	森尾　友宏	発生発達病態学分野	500	補	厚生労働省	
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	森尾　友宏	発生発達病態学分野	2,000	補	厚生労働省	
RAS関連自己免疫性リンパ球増殖症候群様疾患（RALD）の実態調査および病態病因解析	森尾　友宏	発生発達病態学分野	500	補	厚生労働省	
適応拡大に向けた臍帯血移植の先進化による成績向上と普及に関する研究	森尾　友宏	発生発達病態学分野	2,019	補	厚生労働省	
希少疾患への治療応用を目指した臍帯および臍帯血由来細胞の系統的資源化とその応用に関する研究	森尾　友宏	発生発達病態学分野	1,500	補	厚生労働省	
慢性活動性EBウイルス感染症の発症機構解明と新規治療法開発に関する研究	森尾　友宏	発生発達病態学分野	900	補	厚生労働省	
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	森尾　友宏	発生発達病態学分野	1,000	補	厚生労働省	
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療方針の策定	横関　博雄	皮膚科学分野	500	補	厚生労働省	
筋萎縮性側索硬化症の分子病態解明と新規治療法創出に関する研究	横田　隆徳	脳神経病態学分野	2,500	補	厚生労働省	
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	渡邊　守	消化器病態学分野	9,250	補	厚生労働省	
難治性血管炎に関する調査研究	磯部　光章	循環制御内科学分野	800	補	厚生労働省	
アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究	横関　博雄	皮膚科学分野	800	補	厚生労働省	
急性高度難聴に関する調査研究	喜多村　健	耳鼻咽喉科学分野	800	補	厚生労働省	
更年期障害に対する加味逍遥散のプラセボ対照二重盲検群間比較試験	久保田　俊郎	生殖機能協関学分野	300	補	厚生労働省	
関節リウマチの関節破壊機序の解明と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法確立に関する研究	宮坂　信之	膠原病・リウマチ内科学分野	1,600	補	厚生労働省	
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	三條　伸夫	神経内科	1,000	補	厚生労働省	
治療抵抗性統合失調症に対する治療戦略のためのデータベース構築に関する研究	車地　暁生	精神行動医科学分野	400	補	厚生労働省	
幹細胞による次世代の低侵襲軟骨再生治療の開発と臨床応用	宗田　大	運動器外科学分野	7,000	補	厚生労働省	
母子コホート研究による成育疾患等の病態解明に関する研究	小川　佳宏	分子内分泌代謝学分野	1,000	補	厚生労働省	
自己免疫疾患に関する調査研究	上阪　等	膠原病・リウマチ内科学分野	8,000	補	厚生労働省	
幹細胞による次世代の低侵襲軟骨再生治療の開発と臨床応用	森尾　友宏	発生発達病態学分野	4,000	補	厚生労働省	
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	森尾　友宏	発生発達病態学分野	1,500	補	厚生労働省	
灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内骨髄移植療法：基礎から臨床へ	森尾　友宏	発生発達病態学分野	370	補	厚生労働省	
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	針谷　正祥	薬害監視学講座	1,800	補	厚生労働省	
関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究	針谷　正祥	薬害監視学講座	2,000	補	厚生労働省	
難治性血管炎に関する調査研究	針谷　正祥	薬害監視学講座	1,010	補	厚生労働省	
アミロイドーシスに関する調査研究	水澤　英洋	脳神経病態学分野	1,900	補	厚生労働省	
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	水澤　英洋	脳神経病態学分野	2,600	補	厚生労働省	
プリオン病及び遅発性ウィルス感染症に関する調査研究	水澤　英洋	脳神経病態学分野	500	補	厚生労働省	
神経変性疾患に関する調査研究	水澤　英洋	脳神経病態学分野	2,100	補	厚生労働省	小計50件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（千円）	補助元又は委託元		
免疫性神経疾患に関する調査研究	水澤　英洋	脳神経病態学分野	850	補	厚生労働省	
乱用薬物による薬物依存の発症メカニズム・予防・診断及び治療法についての研究	西川　徹	精神行動医科学分野	1,450	補	厚生労働省	
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	大川　淳	整形外科学分野	1,000	補	厚生労働省	
ウイルス性肝炎の病態に応じたウイルス側因子の解明と治療応用	中川　美奈	消化器内科	2,400	補	厚生労働省	
難治性炎症性腸疾患のゲノムおよびエピゲノム解析による病因・病態・治療抵抗性機序の解明	渡邊　守	消化器病態学分野	2,000	補	厚生労働省	
慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究	伏見　清秀	医療政策情報学分野	900	補	厚生労働省	
特発性角膜内皮炎の診断および治療方針の確立に関する研究	望月　學	眼科学分野	1,000	補	厚生労働省	
遺伝学的手法における診断の効果的な実施体制に関する研究	野口　佳裕	耳鼻咽喉科	650	補	厚生労働省	小計8件
						計158件

（注）　1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、
高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Int J Hematol 96:669-673, 2012.	Sequential monitoring of serum IL-6, TNF-α, and IFN-γ levels in a CAEBV patient treated by plasma exchange and immunochemotherapy.	Arai A, Nogami A, Imadome K, Kurata M, Murakami N, Fujiwara S, Miura O.	血液内科
臨床血液 53:87-91, 2012.	血漿中EBV-DNA量を経時的に測定したEBV陽性Hodgkinリンパ腫	内田晃矢、木間りこ、五十嵐愛子、倉田盛人、今留謙一、大木英次郎、三浦修、新井文子	血液内科
Arthritis Care Res (Hoboken) 2012, 64(8): 1125-1134	Time-dependent increased risk for serious infection from continuous use of tumor necrosis factor antagonists over three years in patients with rheumatoid arthritis	Sakai R, Komano Y, Tanaka M, Nanki T, Koike R, Nagasawa H, Amano K, Nakajima A, Atsumi T, Koike T, Ibata A, Ishigatsubo Y, Saito K, Tanaka Y, Ito S, Sumida T, Tohma S, Tamura N, Fujii T, Sugihara T, Kawakami A, Hagino N, Uski Y, Hashiramoto A, Nagasaka K, Miyasaka N, Harigai M	膠原病・リウマチ内科
J Immunol 2012, 189(10): 5066-5072	p16(INK4a) exerts an anti-inflammatory effect through accelerated IRAK1 degradation in macrophages	Murakami Y, Mizoguchi F, Saito T, Miyasaka N, Kohsaka H	膠原病・リウマチ内科
Arthritis Rheum 2012, 64(8): 2655-2662	Interleukin-1 and tumor necrosis factor alpha blockade treatment of experimental polymyositis in mice	Sugihara T, Okiyama N, Watanabe N, Miyasaka N, Kohsaka H	膠原病・リウマチ内科
Arthritis Rheum 2012, 64(11): 3741-3749	T lymphocytes and muscle condition act like seeds and soil in a murine polymyositis model	Okiyama N, Sugihara T, Oida T, Ohata J, Yokozeki H, Miyasaka N, Kohsaka H	膠原病・リウマチ内科
Ann Rheum Dis 2012, 71(11): 1820-1826	Drug retention rates and relevant risk factors for drug discontinuation due to adverse events in rheumatoid arthritis patients receiving anticytokine therapy with different target molecules	Sakai R, Tanaka M, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Koike R, Nagasawa H, Amano K, Saito K, Tanaka Y, Ito S, Sumida T, Ibata A, Ishigatsubo Y, Atsumi T, Koike T, Nakajima A, Tamura N, Fujii T, Dobashi H, Tohma S, Sugihara T, Uski Y, Hashiramoto A, Kawakami A, Hagino N, Miyasaka N, Harigai M	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 2012	Clinical characteristics and risk factors for Pneumocystis jirovecii pneumonia in patients with rheumatoid arthritis receiving adalimumab: a retrospective review and case-control study of 17 patients	Watanabe K, Sakai R, Koike R, Sakai F, Sugiyama H, Tanaka M, Komano Y, Akiyama Y, Mimura T, Kaneko M, Tokuda H, Iso T, Motegi M, Ikeda K, Nakajima H, Taki H, Kubota T, Kodama H, Sugii S, Kurosiwa T, Nawata Y, Shiozawa K, Ogata A, Sawada S, Matsukawa Y, Okazaki T, Mukai M, Iwahashi M, Saito K, Tanaka Y, Nanki T, Miyasaka N, Harigai M	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 2012, 22(3): 382-393	Effects of intravenous immunoglobulin therapy in Japanese patients with polymyositis and dermatomyositis resistant to corticosteroids: a randomized double-blind placebo-controlled trial	Miyasaka N, Hara M, Koike T, Saito E, Yamada M, Tanaka Y	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 2012, 22(6): 814-822	Discontinuation of adalimumab treatment in rheumatoid arthritis patients after achieving low disease activity	Harigai M, Takeuchi T, Tanaka Y, Matsubara T, Yamanaka H, Miyasaka N	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 2012, 22(6): 849-858	Pneumocystis jirovecii pneumonia associated with etanercept treatment in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective review of 15 cases and analysis of risk factors	Tanaka M, Sakai R, Koike R, Komano Y, Nanki T, Sakai F, Sugiyama H, Matsushima H, Kojima T, Ohta S, Ishibe Y, Sawabe T, Ota Y, Ohishi K, Miyazato H, Nonomura Y, Saito K, Tanaka Y, Nazesawa H, Takeuchi T, Nakajima A, Ohtsubo H, Onishi M, Goto Y, Dobashi H, Miyasaka N, Harigai M	膠原病・リウマチ内科
J Rheumatol 2012, 39(3): 486-495	Safety and efficacy of various dosages of ocrelizumab in Japanese patients with rheumatoid arthritis with an inadequate response to methotrexate therapy: a placebo-controlled double-blind parallel-group study	Harigai M, Tanaka Y, Maisawa S	膠原病・リウマチ内科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Rheum. 2013 Feb;65(2)	Am80, a retinoic acid receptor agonist, ameliorates murine vasculitis through the suppression of neutrophil migration and activation.	Miyabe C, Miyabe Y, Miura NN, Takahashi K, Terashima Y, Toda E, et al.	膠原病・リウマチ内科
Biochem. Biophys. Res. Commun. 425;456-61, 2012	Phosphorylation of Na-Cl cotransporter by OSR1 and SPAK kinases regulates its ubiquitination	Hossain Khan MZ, Sohara E, Ohta A, Chiga M, Inoue Y, Isobe K, Wakabayashi M, Oi K, Rai T, Sasaki S, Uchida S	腎臓内科
Hypertension. 60;981-90, 2012	Phosphatidylinositol 3-kinase/Akt signaling pathway activates the WNK-OSR1/SPAK-NCC phosphorylation cascade in hyperinsulinemic db/db mice	Nishida H, Sohara E, Nomura N, Chiga M, Alessi DR, Rai T, Sasaki S, Uchida S	腎臓内科
J. Bone Miner.Metab.30;238-42, 2012	Severe hyperparathyroidism in a pre-dialysis chronic kidney disease patient treated with a very low protein diet	Ohta E, Akazawa M, Noda Y, Mandai S, Naito S, Ohta A, Sohara E, Okado T, Rai T, Uchida S, Sasaki S	腎臓内科
Biol.Open.1;120-7, 2012	A minor role of WNK3 in regulating phosphorylation of renal NKCC2 and NCC co-transporters in vivo	Oi K, Sohara E, Rai T, Misawa M, Chiga M, Alessi DR, Sasaki S, Uchida S	腎臓内科
Clin. Exp. Nephrol. 16;408-10, 2012	Daily variance of urinary excretion of AQP2 determined by sandwich ELISA method	Sasaki S, Ohmoto Y, Mori T, Iwata F, Muraguchi M	腎臓内科
Clin. Exp. Nephrol. 16;530-8, 2012	Effect of heterozygous deletion of WNK1 on the WNK-OSR1/ SPAK-NCC/NKCC1/NKCC2 signal cascade in the kidney and blood vessels	Susa K, Kita S, Iwamoto T, Yang SS, Lin SH, Ohta A, Sohara E, Rai T, Sasaki S, Alessi DR, Uchida S	腎臓内科
Biochem. Biophys. Res. Commun. 427;143-7, 2012	WNK-OSR1/SPAK-NCC signal cascade has circadian rhythm dependent on aldosterone	Susa K, Sohara E, Isobe K, Chiga M, Rai T, Sasaki S, Uchida S	腎臓内科
Nat. Med. 18;1324-5, 2012	Does a β2-adrenergic receptor-WNK4-Na-Cl co-transporter signal cascade exist in the in vivo kidney?	Uchida S, Chiga M, Sohara E, Rai T, Sasaki S	腎臓内科
Cell Rep. 2013 Mar 28;3(3):858-68	Impaired KLHL3-mediated ubiquitination of WNK4 causes human hypertension.	Wakabayashi M, Mori T, Isobe K, Sohara E, Susa K, Araki Y, Chiga M, Kikuchi E, Nomura N, Mori Y, Matsuo H, Murata T, Nomura S, Asano T, Kawaguchi H, Nonoyama S, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科
Circ J 76(4): 1004-1011, 2012	Improved Prognosis of Takayasu Arteritis in the Last Decade: Comprehensive Analysis of 106 Patients.	Ohigashi H, Haraguchi G, Konishi M, Tezuka D, Kamiishi T, Ishihara T, Isobe M	循環器内科
J Am Coll Cardiol Imaging 5(4): 422-429, 2012	Role of FDG-PET/CT and Utility of Maximum Standard Uptake Value in Takayasu Arteritis: Sensitive Detection of Recurrence.	Tezuka D, Haraguchi G, Ishihara T, Ohigashi H, Inagaki H, Suzuki J, Hirao K, Isobe M	循環器内科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Circ J 76(7): 1697-1702, 2012	A New HLA Risk Allele in Japanese Patients with Takayasu Arteritis.	Takamura O, Ohigashi H, Ebana Y, Isobe M	循環器内科
Circ J 76: 2711-2712, 2012	Pulmonary Vein Fibrillation Arising From an Apicodorsal Pulmonary Vein.	Maeda S, Yamauchi Y, Isobe M, Hirao K	循環器内科
Circ J 77 (2): 338-344, 2013	Preprocedural Therapeutic INR Influence on Bleeding Complications in Atrial Fibrillation Ablation with Continued Anticoagulation with Warfarin.	Hayashi T, Kumazai K, Naito S, Goto K, Kasano K, Oshima S, Hachiya H, Hirao K, Isobe M	循環器内科
Cardiovasc Revasc Med. 13(4):253-255, 2012	Proximal balloon deflation technique: a novel method to retrieve retained or entrapped equipment from the coronary system.	Ashikaga T, Inagaki H, Satoh Y, Isobe M	循環器内科
Circ J 77(3): 626-631, 2013	Distribution of the origin of adenosine triphosphate-sensitive atrial tachycardias with the earliest activation recorded in the His bundle catheter -Are they limited to the immediate vicinity of the His bundle?-	Nakamura T, Hachiya H, Tanaka Y, Yagishita A, Sugiyama K, Suzuki M, Kawabata M, Sasano T, Hirao K, Isobe M	循環器内科
Heart Rhythm 10(9) March: 338-340, 2013	Sequential Bi-atrial Linear Defragmentation Approachfor Persistent Atrial Fibrillation.	Miyazaki S,Taniguchi H, Komatsu Y, Uchiyama T, Kusa S, Nakamura H, Hachiya H, Isobe M, Hirao K, Iesaka Y	循環器内科
Heart Rhythm 10(5) May: 629-635, 2013	Clinical Utility of Adenosine-Infusion test at Repeat Atrial FibrillationAblation procedure.	Miyazaki S,Kobori A, Hocini M, Shar AJ, Taniguchi H, Kusa S, Uchiyama T, Nakamura H, Hachiya H, Isobe M, Hirao K, Haissaguerre M, Takahashi A, Iesaka Y	循環器内科
Am J Cardiol 111(10) May: 1448-1451, 2013	Long-term Complications of Implantable Defibrillator Therapy in Brugada Syndrome.	Miyazaki S, Uchiyama T, Komatsu Y, Taniguchi H, Kusa S, Nakamura H, Hachiya H, Isobe M, Hirao K, Iesaka Y	循環器内科
Circ J 77(7): 1769 - 1777, 2013	Variability of Index of Microcirculatory Resistance and its Relationship with Fractional Flow Reserve in Patients with Intermediate Coronary Artery Lesions.	Murai T, Lee T, Yonetsu T, Iwai T, Takagi T, Hishikari K, Masuda R, Iesaka Y, Isobe M, Kakuta T	循環器内科
Int J Cardiol published on line Feb. 15, 2013	Takayasu Arteritis Revisited: Current Diagnosis and Treatment.	Isobe M	循環器内科
Digestive Endoscopy, 24(6):470-474, 2012	Modified single-operator method for double-balloon endoscopy.	Araki A, Suzuki S, Tsuchiya K, Oshima S, Okada E, Watanabe M	消化器内科
Journal of Medical Case Reports. 6(1):328, 2012	Endoscopic ultrasound with double-balloon endoscopy for the diagnosis of inverted Meckel's diverticulum: a case report.	Araki A, Tsuchiya K, Oshima S, Okada E, Suzuki S, Morio-Akiyama J, Fujii T, Okamoto R, Watanabe M	消化器内科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Hepatology. 55: 20- 29, 2012	Association of gene expression involving innate immunity and genetic variation in interleukin 28B with antiviral response.	Asahina Y, Tsuchiya K, Muraoka M, Tanaka K, Suzuki Y, Tamaki N, Hoshioka Y, Yasui Y, Katoh T, Hosokawa T, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Enomoto N, Nitta S, Sakamoto N, Izumi N	消化器内科
Journal of Crohn's and Colitis. 6: 852- 860, 2012	Development of a numerical index quantitating small bowel damage as detected by ultrasonography in Crohn's disease.	Calabrese E, Zorzi F, Zuzzi S, Ooka S, Onali S, Petruzziello C, Lasinio GJ, Biancone L, Rossi C, Pallone F	消化器内科
Dig Dis Sci. 57(12):3303-3308. 2012	Histologically confirmed IgG4-related small intestinal lesions diagnosed via double balloon enteroscopy.	Fujita K, Naganuma M, Saito E, Suzuki S, Araki A, Negi M, Kawachi H, Watanabe M	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. 18: 1480- 1487, 2012	Retrieval of serum infliximab level by shortening the maintenance infusion interval is correlated with clinical efficacy in Crohn's disease.	Hibi T, Sakuraba A, Watanabe M, Motoya S, Ito H, Motegi K, Kinouchi Y, Takazoe M, Suzuki Y, Matsumoto T, Kawakami K, Matsumoto T, Hirata I, Tanaka S, Ashida T, Matsui T	消化器内科
J Gastroenterol.(Epub ahead of print) . 2012	Inhibition of hepatocellular carcinoma by PegIFNα2a in patients with chronic hepatitis C: a nationwide multi-center cooperative study.	Izumi N, Asahina Y, Kurosaki M, Yamada G, Kawai T, Kajiwara E, Okamura Y, Takeuchi T, Yokosuka O, Kariyama K, Toyoda J, Inao M, Tanaka E, Morikawa H, Adachi K, Katsushima S, Kudo M, Takaguchi K, Hiasa Y, Chayama K, Yatsuhashi H, Okutani M, Kumada H	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun. (Epub ahead of print). 2013.	The acquisition of malignant potential in colon cancer is regulated by the stabilization of Atonal homolog 1 protein.	Kano Y, Tsuchiya K, Zheng X, Horita N, Fukushima K, Hibiya S, Yamauchi Y, Nishimura T, Hinohara K, Gotoh N, Suzuki S, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科
Hepatology . (in press). 2013.	Wnt5a Signaling Mediates Biliary Differentiation of Fetal Hepatic Stem/Progenitor Cells.	Kiyohashi K, Kakinuma S, Kamiya A, Sakamoto N, Nitta S, Yamanaka H, Yoshino K, Fujiki J, Murakawa M, Kusano-Kitazume A, Shimizu H, Okamoto R, Azuma S, Nakagawa M, Asahina Y, Tanimizu N, Kikuchi A, Nakauchi H, Watanabe M	消化器内科
Antivir Ther. 17: 35- 43, 2012	Age and total ribavirin dose are independent predictors of relapse after interferon therapy in chronic hepatitis C revealed by data mining analysis.	Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Yatsuhashi H, Izumi N	消化器内科
J Med Virol. 85:449-458, 2013.	Model incorporating the ITPA genotype identifies patients at high risk of anemia and treatment failure with pegylated-interferon plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Matsuura K, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Tokunaga K, Mizokami M, Izumi N	消化器内科
Antimicrob Agents Chemother. 56(3):1315-1323, 2012	Identification of novel N-(morpholine-4-carbonyloxy) amidine compounds as potent inhibitors against hepatitis C virus replication.	Kusano-Kitazume A, Sakamoto N, Okuno Y, Sekine-Osajima Y, Nakagawa M, Kakinuma S, Kiyohashi K, Nitta S, Murakawa M, Azuma S, Nishimura-Sakurai Y, Nagiwara M, Watanabe M	消化器内科
J Gastroenterol. 47:981-988, 2012.	Effects of family history on inflammatory bowel disease characteristics in Japanese patients.	Kiwahara F, Asakura K, Nishiwaki Y, Inoue N, Watanabe M, Hibi T, Takebayashi T	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun . 419:238-243, 2012.	Real-time analysis of P-glycoprotein-mediated drug transport across primary intestinal epithelium three-dimensionally cultured in vitro.	Mizutani T, Nakamura T, Morikawa R, Fukude M, Mochizuki W, Yamauchi Y, Nozaki K, Yui S, Nemoto Y, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Watanabe M	消化器内科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Journal of Crohn's & colitis. (Epub ahead of print) , 2012	Incidence and characteristics of the 2009 influenza (H1N1) infections in inflammatory bowel disease patients.	Naganuma M, Fujii T, Kunisaki R, Yoshimura N, Takazoe M, Takeuchi Y, Saito E, Nagahori M, Asakura K, Takebayashi T, Watanabe M	消化器内科
J Gastroenterol.(Epub ahead of print) , 2012	A prospective analysis of the incidence and risk factors for opportunistic infections in patients with inflammatory bowel disease.	Naganuma M, Kunisaki R, Yoshimura N, Takeuchi Y, Watanabe M	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. (Epub ahead of print) , 2012	Poor recall of prior exposure to varicella zoster, rubella, measles, or mumps in patients with IBD.	Naganuma M, Nagahori M, Fujii T, Morio J, Saito E, Watanabe M	消化器内科
Hepatol Int. (in press), 2013	Association of ITPA gene variant and serum ribavirin concentration with blood cells decline in pegylated interferon-alfa plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe T, NishimuraSakurai Y, Onozuka I, Azuma S, Kakinuma S, Nitta S, Kiyohashi K, Kusano-Kitazume A, Murakawa M, Yoshino K, Itsui Y, Tanaka Y, Mizokami M, Watanabe M, Ochanomizu Liver Conference Study Group	消化器内科
Gut. (Epub ahead of print) 2012	Bone marrow-mesenchymal stem cells are a major source of interleukin-7 and sustain colitis by forming the niche for colitogenic CD4+ memory T cells.	Nemoto Y, Kanai T, Takahara M, Oshima S, Nakamura T, Okamoto R, Kiichiro T, Watanabe M	消化器内科
PLoS One, 7(6):e39175, 2012.	Genome-wide association study confirming association of HLA-DP with protection against chronic hepatitis B and viral clearance in Japanese and Korean.	Nishida N, Sawai H, Matsuura K, Sugiyama M, Ahn SH, Park JY, Hige S, Kang JH, Suzuki K, Kurosaki M, Asahina Y, Mochida S, Watanabe M, Tanaka E, Honda M, Kaneko S, Orito E, Ttoh Y, Mita E, Tamori A, Murawaki Y, Hiasa Y, Sakaida I, Korenaga M, Hino K, Ide	消化器内科
Hepatology. 57(1):46-58, 2012	Hepatitis C virus NS4B protein targets STING and abrogates RIG-I-mediated type-I interferon-dependent innate immunity.	Nitta S, Sakamoto N, Nakagawa M, Kakinuma S, Mishima K, Kusano-Kitazume A, Kiyohashi K, Murakawa M, Nishimura-Sakurai Y, Azuma S, Tasaka-Fujita M, Asahina Y, Yoneyama M, Fujita T, Watanabe M	消化器内科
Digestive Endoscopy, 39(7):533-539, 2012	Histological diagnosis of follicular lymphoma by biopsy of small intestinal normal mucosa.	Okada E, Araki A, Suzuki S, Watanabe H, Ikeda I, Watanabe T, Kurata M, Eishi M, Watanabe M	消化器内科
Gastroenterology. 143(5):1288-1297, 2012	T-helper 17 and interleukin-17-producing lymphoid tissue inducer-like cells make different contributions to colitis in mice .	Ono Y, Kanai T, Sujino T, Nemoto Y, Kanai Y, Mikami Y, Hayashi A, Matsumoto A, Takaishi H, Ogata H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe M, Hibi T	消化器内科
Intern Med. 52: 125-128, 2012	Chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy in a patient with crohn' s disease.	Ohyagi M, Ohkubo T, Yagi Y, Ishibashi S, Akiyama J, Nagahori M, Watanabe M, Yokota T, Mizusawa H	消化器内科
Cancer Chemother Pharmacol. 69: 1197- 1204, 2012	Randomized phase II study of gemcitabine and S-1 combination versus gemcitabine alone in the treatment of unresectable advanced pancreatic cancer (Japan Clinical Cancer Research Organization PC-01 study)	Ozaka M, Matsumura Y, Ishii H, Omuro Y, Itoi T, Mouri H, Hanada K, Kimura Y, Maetani I, Okaba Y, Tani M, Ikeda T, Hijioka S, Watanabe R, Ooka S, Hirose Y, Suyama M, Egawa N, Sofuni A, Ikeri T, Nakajima T	消化器内科
J Med Dent Sci. 59: 39- 48, 2012	Hepatic stellate cells mediate differentiation of dendritic cells from monocytes.	Ozeki R, Kakinuma S, Asahina K, Simizu-Saito K, Arii S, Tanaka Y, Teraoka H	消化器内科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
BMC Gastroenterology. 12;42. 2012	Efficacy of omeprazole, famotidine, mosapride and teprenone in patients with upper gastrointestinal symptoms: an omeprazole-controlled randomized study (J-FOCUS)	Sakurai K, Nagahara K, Inoue K, Akiyama J, Mabe K, Suzuki J, Habu Y, Araki A, Suzuki T, Satoh K, Nagami H, Harada R, Tano N, Kusaka M, Fujioka Y, Fujimura T, shigeto N, Oumi T, Miwa J, Miwa H, Fujimoto K, Kinoshita Y, Hamura K	消化器内科
BMC Med Genet. 13: 47,2012	No association for Chinese HBV-related hepatocellular carcinoma susceptibility SNP in other East Asian populations.	Sawai H, Nishida N, Mbarek H, Matsuda K, Mawatari Y, Yamaoka M, Higa S, Kang JH, Abe K, Mochida S, Watanabe M, Kurosaki M, Asahina Y, Izumi N, Honda M, Kaneko S, Tanaka E, Matsuura K, Itoh Y, Mita E, Korenaga M, Hino K, Murawaki Y, Hiasa Y, Ide T, Ito K	消化器内科
J Viral Hepat. 20(1):72-78. 2012	Noninvasive estimation of fibrosis progression overtime using the FIB-4 index in chronic hepatitis CN.	Tamaki N, Kurosaki M, Tanaka K, Suzuki Y, Hoshioka Y, Kato T, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Asahina Y, Izumi N	消化器内科
J Viral Hepatitis. 20(3):167-173. 2013	Virologic response and safety of 24-week telaprevir alone in Japanese patients infected with hepatitis C virus subtype 1b.	Toyoda J, Ozeki I, Asahina Y, Izumi N, Takahashi S, Kawakami Y, Chayama K, Kamiya N, Aoki K, Yamada I, Suzuki Y, Suzuki F, Kumada H	消化器内科
J Gastroeoterol. 48(1):31-72. 2012	on behalf of the guideline project group of intractable Inflammatory Bowel Disease granted by the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan and the Guidelines Committee of the Japanese: Evidence-based clinical practice guidelines for Crohn's disease, integrated with formal consensus of experts in Japan.	Ueno F, Matsui T, Matsumoto T, Matsuoka K, Watanabe M, Hibi T	消化器内科
Inflammatory Bowel Dis. (in press). 2012	Comparison of QD and TID oral mesalazine for maintainance of remission in quiescent ulcerative colitis: a double-blind, double-dummy, randomized multicenter study.	Watanabe M, Hanai H, Nishino H, Yokoyama T, Terada T, Suzuki Y	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. 18; 17- 24, 2012	Interval of less than 5 years between the first and second operation is a risk factor for a third operation for Crohn's disease.	Watanabe T, Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, Watanabe M	消化器内科
Hepatogastroenterology. 59: 1081- 1086, 2012	Time trend and risk factors for reoperation in Crohn's disease in Japan.	Watanabe T, Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, Watanabe M	消化器内科
J Immunol. 188(6):2524-2536, 2012	The development of colitogenic CD4+ T cells is regulated by IL-7 in collaboration with NK cell function in a murine model of colitis.	Yamaji O, Nagaishi T, Totsuka T, Onizawa M, Suzuki M, Tsuge N, Hasegawa A, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Arase H, Kanai T, Watanabe M	消化器内科
Nat Med. 18:618-623, 2012.	Functional engraftment of colon epithelium expanded in vitro from a single adult Lgr5+ stem cell.	Yui S, Nakamura T, Sato T, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Ichinose S, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Clevers H, Watanabe M	消化器内科
Hepatology Apr 8, 2013	α-fetoprotein levels after interferon therapy and risk of hepatocarcinogenesis in chronic hepatitis C.	Asahina Y, Tsuchiya K, Nishimura T, Muraoka M, Suzuki Y, Tamaki N, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Enomoto N, Nakagawa M, Kakinuma S, Watanabe M, Izumi N.	消化器内科
Hepatology Research 43; 1-34, 2013	Guidelines for the Management of Hepatitis C Virus Infection.	Asahina Y, Hayashi N, Izumi N, Koike K, Kumada H, Okatani M, Suzuki F, Takikawa H, Tanaka A, Tsubouchi H, Yotsuyanagi H; editors of the Drafting Committee for Hepatitis Management Guidelines.	消化器内科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Journal of Gastroenterology 2013	Genetic variation near interleukin 28B and the risk of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C.	Asahina Y, Tsuchiya K, Nishimura T, Muraoak M, Suzuki Y, Tamaki N, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Enomoto N, Nakagawa M, Kakinuma S, Watanabe M, Izumi N	消化器内科
Journal of Clinical and Translational Hepatology 2013(in press)	Polymorphism near the interleukin 28B gene and anti-hepatitis C viral response.	Asahina Y, Nakagawa M, Kakinuma S, Watanabe M.	消化器内科
Hepatol Res 20: 72-78, 2013	Impaired brain activity in cirrhotic patients with minimal hepatic encephalopathy: evaluation by near infrared spectroscopy.	Nakanishi H, Kurosaki M, Nakanishi K, Tsuchiya K, Noda T, Tamaki N, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Itakura J, Anami K, Asahina Y, Enomoto N, Higuchi T, Izumi N.	消化器内科
Arthritis Rheumatism. 2012;65:503-12.	Am80, a retinoic acid receptor agonist, ameliorates murine vasculitis through the suppression of neutrophil migration and activation.	Miyabe C, Miyabe Y, Miura NN, Takahashi K, Terashima Y, Morio T, Yamagata N, Ohno N, Shudo K, Suzuki J-I, Isobe M, Matsuhima K, Tsuboi R, Miyasaka N, and Nanki T.	小児科
Blood. 2012;120(4): 789-99	Process for immune defect and chromosomal translocation during early thymocyte development lacking ATM.	Isoda T, Takagi M, Piao J, Nakagama S, Sato M, Masuda K, Ikawa T, Azuma M, Morio T, Kawamoto H, Mizutani S.	小児科
Clinical Endocrinol. 2012;77;628-34.	Endocrine complications in primary immunodeficiency diseases in Japan.	Nozaki T, Tokada H, Ishimura M, Ihara K, Imai K, Morio T, Kobayashi M, Nonoyama S, Hara T.	小児科
Neuropathology. 2012;32:207-10.	An autopsy case of polymicrogyria and intracerebral calcification with death by intracerebral hemorrhage.	Nakajima K, Hayashi M, Tanuma N, Morio T.	小児科
Pediatr Infect Dis J. 2012;31:427.	Acute cerebellitis and concurrent encephalitis associated with parvovirus B19 infection.	Uchida Y, Matsubara K, Morio T, Kasawaki Y, Iwata A, Yura K, Kamimura K, Nigami H, Fukawya T.	小児科
J Infect Chemother. 2012;52;607-15.	Recurrent bacterial meningitis by three different pathogens in an isolated asplenic child.	Uchida Y, Matsubara K, Wada T, Oishi K, Morio T, Takada H, Iwata A, Yura K, Kamimura K, Nigami H, Fukuya T.	小児科
Curr Chem Genomics. 2012;6, 27-37.	A Dual Reporter Splicing Assay Using HaloTag-containing Proteins.	Oshima K, Nagase T, Imai K, Nonoyama S, Obara M, Mizukami T, Nunoi H, Kanegane H, Kunbayashi F, Amemiya S, Ohara O.	小児科
J Clin Immunol. 2012;32. 411-20.	Clinical and genetic characteristics of XIAP deficiency in Japan.	Yang X, Kanegane H, Nishida N, Imamura T, Hamamoto K, Miyashita R, Imai K, Nonoyama S, Sanayama K, Yamaide A, Kato F, Nagai K, Ishii E, van Zelm MC, Latour S, Zhao XD, Miyawaki T.	小児科
Eur J Pediatr. 2012;171.1273-6.	GATA-2 anomaly and clinical phenotype of a sporadic case of lymphedema, dendritic cell, monocyte, B- and NK-cell (DCML) deficiency, and myelodysplasia.	Ishida H, Imai K, Honma K, Tamura S, Imamura T, Ito M, Nonoyama S.	小児科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Int J Hematol .2012;95. 692-6.	Delayed onset adenosine deaminase deficiency associated with acute disseminated encephalomyelitis.	Nakaoka H, Kanegane H, Tanichi H, Miya K, Yang X, Nomura K, Takezaki S, Yamada M, Ohara O, Kamae C, Imai K, Nonoyama S, Wada T, Yachie A, Hershfield MS, Ariga T, Miyawaki T.	小児科
Pediatr Int. 2012;54. 543-6.	Hyper-eosinophilia in granular acute B-cell lymphoblastic leukemia with myeloid antigen expression.	Kobayashi D, Kogawa K, Imai K, Tanaka T, Sada A, Nonoyama S.	小児科
J Clin Immunol. 2012;32. 690-7.	Multiple reversions of an IL2RG mutation restore T cell function in an X-linked severe combined immunodeficiency patient.	Kawai T, Saito M, Nishikomori R, Yasumi T, Izawa K, Murakami T, Okamoto S, Mori Y, Nakagawa N, Imai K, Nonoyama S, Wada T, Yachie A, Ohmori K, Nakahata T, Heike T.	小児科
Case Rep Transplant. 2012;2012;164824. doi: 10.1155/2012/164824.	Epstein-Barr virus associated B cell lymphoma of recipient origin during the elimination of clonally infected T cells by allogeneic stem cell transplantation.	Nagasawa M	小児科
Case Rep Transplant. 2012;2012;619126. doi: 10.1155/2012/619126.	A Pediatric Case of Systemic Lupus Erythematosus Developed 10 Years after Cord Blood Transplantation for Juvenile Myelomonocytic Leukemia.	Nagasawa M, Aoki Y.	小児科
Blood. 2012; 120(9): 1810-5.	Clinical characteristics and outcome of refractory/relapsed myeloid leukemia in children with Down syndrome.	Taga T, Saito AM, Kudo K, Tomizawa D, Tenai K, Moritake H, Kinoshita A, Iwamoto S, Nakayama H, Takahashi H, Tawa A, Shimada A, Taki T, Kigasawa H, Koh K, Adachi S.	小児科
Cancer Cell. 2012;22;683-97.	An inv(16)(p13.3;q24.3)-encoded CBFA2T3-GLIS2 fusion protein defines an aggressive subtype of pediatric acute megakaryoblastic leukemia.	Gruber TA, Larsson Gedman A, Zhang J, Koss CS, Marada S, Ta HQ, Chen SC, Su X, Ogden SK, Dang J, Wu G, Gupta V, Andersson AK, Pounds S, Shi L, Easton J, Barbato MI, Mulder HL, Manne J, Wang J, Rusch M, Ranade S, Ganti R, Parker M, Ma J, Radtke I, Ding L, Cazzaniga G, Biondi A, Kornblau SM, Ravandi F, Kantarjian H, Nimer SD, Döhner K, Döhner H, Ley TJ, Ballerini P, Shurtleff S, Tomizawa D, Adachi S, Hayashi Y, Tawa A, Shih LY, Liang DC, Rubnitz JE, Pui CH, Mardis ER, Wilson RK, Downing JR.	小児科
Neuropathology. 2012 Apr;32(2):207-10.	An autopsy case of polymicrogyria and intracerebral calcification with death by intracerebral hemorrhage.	Nakajima K, Hayashi M, Tanuma N, Morio T	小児科
Cancer Sci. 2013 Feb;104(2):178-84	Ataxia telangiectasia mutated-dependent regulation of topoisomerase II alpha expression and sensitivity to topoisomerase II inhibitor.	Tamaichi H, Sato M, Porter AC, Shimizu T, Mizutani S, Takagi M.	小児科
Int J Hematol. 2013 Jan;97(1):37-42.	XCIND as a genetic disease of X-irradiation hypersensitivity and cancer susceptibility.	Mizutani S, Takagi M.	小児科
Congenit Anom (Kyoto). 2012 Jun;53(2):78-81.	Spastic quadriplegia in Down syndrome with congenital duodenal stenosis/atresia.	Kurosawa K, Enomoto K, Tominaga M, Furuya N, Sameshima K, Iai M, Take H, Shinkai M, Ishikawa H, Yamanaka M, Matsui K, Masuno M.	小児科
Am J Med Genet A. 2012 Sep;158A(9):2347-52.	Expression analysis of a 17p terminal deletion, including YWHAE, but not PAFAH1B1, associated with normal brain structure on MRI in a young girl.	Enomoto K, Kishitani Y, Tominaga M, Ishikawa A, Furuya N, Aida N, Masuno M, Yamada K, Kurosawa K.	小児科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Am J Med Genet A. 2012 Oct;158A(10):2542-4.	12q14 microdeletion syndrome and short stature with or without relative macrocephaly.	Takenouchi T, Enomoto K, Nishida T, Torii C, Okazaki T, Takahashi T, Kosaki K.	小児科
Pediatr Transplant. Issue published online:24 sep 2012.	Sequential liver-kidney transplantation in a boy with congenital hepatic fibrosis and nephronophthisis from a living donor.	Udagawa T, Kamei K, Ogura M, Tsutsumi A, Noda S, Kasahara M, Fukuda A, Sakamoto S, Shigeta S, Tanaka H, Kuroda T, Matsuoka K, Nakazawa A, Nagai T, Uemura O, Ito S.	小児科
Psychogeriatrics. 2:255 220.2012	Donepezil-induced sleep spindle in a patient with dementia with Lewy bodies	Ozaki A, Nishida M, Koyama K, Ishikawa K, Nishikawa T	精神科
Behavioral and Brain Functions. 8:43.2012	An amiogenic drug, FG 7142, induced an increase in mRNA of Btg2 and Adamts1 in the hippocampus of adult mice	Kurumaji A, Nishikawa T	精神科
J ECT. 28:50-51.2012	Improvement of asymmetrical temporal blood flow in refractory oral somatic delusion after successful electroconvulsive therapy	Uozato A, Yamamoto N, Kurumaji A, Torihara A, Umezaki Y, Toyofuku A, Nishikawa T	精神科
International Journal of Neuropsychopharmacology. 1-12. 2012	Modulation of extracellular D-serine content by calcium permeable AMPA receptors in rat medial prefrontal cortex as revealed by in vivo microdialysis	Ishiwata S, Umino A, Umino M, Yorita K, Fukui K, Nishikawa T	精神科
Amino Acids. in press.2013	Increasing effects of S-methyl-L-cysteine on the extracellular D-serine concentrations in the rat medial frontal cortex.	Ishiwata S, Ogata S, Umino A, Shiraku H, Ohashi Y, Kaji Y, Nishikawa T.	精神科
精神科 20(3). 343-349.2012	パーキンソン病の幻覚・妄想状態にaripiprazoleが著効した一症例	武田充弘,川俣光太郎,石橋哲,西川徹,車地暁生	精神科
Journal of Psychiatric Research. 46: 905-912. 2012	Frontal and right temporal activations correlate negatively with depression severity during verbal fluency task: A multi-channel near-infrared spectroscopy study	Noda T, Yoshida S, Matsuda T, Okamoto N, Sakamoto K, Koseki S, Numachi Y, Matsushima E, Kunugi H, Higuchi T	心身医療科
BMC Cancer. 2013;13:149	Study protocol of the B-CAST study: a multicenter, prospective cohort study investigating the tumor biomarkers in adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer.	Ishiguro M, Kotake K, Nishimura G, Tomita N, Ishikawa W, Takahashi K, Watanabe T, Furuhata T, Kondo K, Mori M, Kakeji Y, Kanazawa A, Kobayashi M, Okajima M, Hyodo I, Miyakoda K, Sugihara K.	大腸・肛門外科 乳腺外科
Cancer Genomics & Proteomics 2012;9(2):67-75	Screening for epigenetically masked genes in colorectal cancer using 5-Aza-2'-deoxycytidine, microarray and gene expression profile	Khamas A, Ishikawa T, Shimokawa K, Moguchi K, Ida S, Ishiguro M, Mizushima H, Tanaka H, Uetake H, Sugihara K	大腸・肛門外科 乳腺外科
Br J Cancer 2012;106(7):1268-1273	Safety of UFT/LV and S-1 as adjuvant therapy for stage III colon cancer in phase III trial: ACTS-CC trial	Mochizuki I, Takiuchi H, Nakamoto Y, Kinugasa Y, Takagane A, Endo T, Shinomaki H, Takai Y, Takahashi Y, Mochizuki H, Kotake K, Kameoka S, Takahashi K,Watanabe T, Watanabe M, Boku N, Tomita N, Matsubara Y, Sugihara K	大腸・肛門外科 乳腺外科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
J Clin Oncol 2012;30(13):1519-1526	Optimal Colorectal Cancer Staging Criteria in TNM Classification	Ueno H, Mochizuki, Akagi Y, Kusumi T, Yamada K, Dogami M, Kawachi H, Kameok a S, Ohkura Y, Masaki T, Kushima R, Takahashi K, Ajioka Y, Hase K, Ochiai A, Wada R, Iwaya K, Shimazaki H, Nakamura T, Sugihara K	大腸・肛門外科 乳腺外科
J Hepatobiliary, Pancreat Sci 2012;19:509-514	Fate of metastatic foci after chemotherapy and usefulness of contrast-enhanced intraoperative ultrasonography to detect minute hepatic lesions	Ustake H,Tanaka S, Ishikawa T, Sugihara K, Arii S	大腸・肛門外科 乳腺外科
Ann Surg Oncol 2012;19(13):2471-2477	Resection with en block removal of regional lymph node after endoscopic resection of T1 colorectal cancer	Kobayashi H, Higuchi T, Ustake H, Ida S, Ishikawa T, Ishiguro M, Sugihara K	大腸・肛門外科 乳腺外科
日本臨床外科学会雑誌 2012;73(9):2415-2420	コンポジットメッシュによる腹壁再建後に遅発性メッシュ感染を合併した2例	山内慎一、小林宏寿、石川敏昭、杉原健一	大腸・肛門外科 乳腺外科
日本臨床外科学会雑誌 2012;73(9):2311-2315	Ehlers-Danlos症候群に合併した若年性大腸癌の一例	村瀬秀明、眞田克也、小塚泰一、福田浩文	大腸・肛門外科 乳腺外科
Acta Neurochir Suppl, 2013;115:259-65	Statin-induced T-lymphocyte modulation and neuroprotection following experimental subarachnoid hemorrhage.	Ayer RE, Ostrowski RP, Sugawara T, Ma Q, Jafarian N, Tang J, Zhang JH	脳神経外科
2012 Jul 18. [Epub ahead of print]	Post-operative mismatch negativity recovery in a temporal lobe epilepsy patient with cavernous angioma. Clin Neurol Neurosurg.	Hara K, Maehara T, Miyajima M, Ohta K, Ino H, Inaji M, Matsuda A, Matsushima E, Hara M, Matsuura M	脳神経外科
J Neurolinguistics, 2012; 25:44-61.	Neural mechanisms of language switch.	Hosoda C, Hanakawa T, Nariai T, Ohno K, Honda M	脳神経外科
Cancer Research 2012 ;72(11):2901-11	The RASSF3 candidate tumor suppressor induces apoptosis and G1-S cell-cycle arrest via p53.	Takumi Kudo, Mitsunobu Ikeda, Misa Nishikawa, Zeyu Yang, Kikuo Ohno, Kentaro Nakagawa, Yutaka Hata	脳神経外科
J Neurosurg Pediatr, 2012;10:451-6	Long-term follow-up of surgically treated juvenile patients with moyamoya disease.	Mukawa M, Nariai T, Matsushima Y, Tanaka Y, Inaji M, Maehara T, Aoyagi M, Ohno K	脳神経外科
J Med Dent Sci 59:57-63, 2012	Analysis of DWI ASPECTS and recanalization outcome of patients with acute-phase cerebral infarction.	Shigeta K, Ohno K, Takasato Y, Masaoka H, Hayakawa T, Yatsushige H, Inaji M, Sumiyoshi K, Momose T, Maeda T	脳神経外科
Clinical Nuclear Medicine, 2012;37(12):1146-51	Increased Adenosine A1 Receptor Levels in Hemianopia Patients After Cerebral Injury: An Application of PET Using 11C-8-Dicyclopropylmethyl-1-Methyl-3-Propylxanthine.	Suzuki Y, Nariai T, Kiyosawa M, Mochizuki M, Kimura Y, Oda K, Ishii K, Ishiwata K	脳神経外科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Ann Nucl Med. 2013;27:285-98	Direct comparison of radiation dosimetry of six PET tracers using human whole-body imaging and murine biodistribution studies.	Sakata M, Oda K, Toyohara J, Ishii K, Nariai T, Ishiwata K	脳神経外科
Mol Ther. 2013 Jan;21(1):68-77	Multimechanistic tumor targeted oncolytic virus overcomes resistance in Brain tumors.	Kaoru Tamura, Wakimoto H, Agarwal AS, Rabkin SD, Bhere D, Martuza RL, Kuroda T, Kasmieh R, Shah K	脳神経外科
International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics. 2013;85:53-60	Delayed complications in patients surviving at least 3 years after stereotactic radiosurgery for brain metastases.	Yamamoto M, Kawabe T, Higuchi Y, Sato Y, Nariai T, Barfod BE, Kasuya H, Urakawa Y	脳神経外科
Jpn J Neurosurg(Tokyo) 21:712-720,2012	最新の神経画像検査を用いた側頭葉てんかんの多機能画像診断・手術	前原健寿、田中洋次、青柳傑、成相直、河野純久、石井賢二、石渡喜一、大野喜久郎	脳神経外科
CI研究34(1):25-9,2012	3D-DRIVE法によるSTA-MCA bypass吻合術術前シミュレーションの有用性	福次基希、入江伸介、田中洋次、成相直、大野喜久郎、福屋徹、斉藤修、李泰辰、斎藤孝次	脳神経外科
Hip Joint(0389-3634)38巻 Page472-475(2012.08)	両側一期的人工股関節全置換術におけるドレーン留置の有用性に関する検討	小谷野岳、神野哲也、麻生徹則、吉賀大介、谷口亘史、高田ちさと、宗田大、大川淳、森田定雄、山内裕樹	整形外科
脊髄機能診断学 33巻1号Page169-175(2012)	圧迫性脊髄症患者に対する術中脊髄モニタリングにおけるBi-phasic刺激法とMono-phasic刺激法との比較	諏川大、川端茂徳、榊経平、吉井俊貴、富澤將司、加藤剛、樋本光裕、四宮謙一、大川淳	整形外科
日本生体磁気学会誌 25巻1号Page22-23(2012)	腰部神経誘発磁界機能イメージング：腰椎疾患患者の無侵襲診断にむけて	諏川大、川端茂徳、榊経平、富澤將司、大川淳	整形外科
日本生体磁気学会誌 25巻1号Page14-14(2012)	磁気計測による脊髄機能イメージング：臨床応用の現状と展望	川端茂徳、富澤將司、榊経平、諏川大、大川淳	整形外科
日本生体磁気学会誌 25巻1号Page18-19(2012)	脊髄誘発磁界による脊髄機能診断のための基礎的研究：脊髄障害モデルを用いて	榊経平、川端茂徳、富澤將司、友利正樹、諏川大、大川淳	整形外科
日本生体電気・物理刺激研究会誌 26巻Page80 83(2012)	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄モニタリングにおける経頭蓋Bi-phasic刺激法とMono-phasic刺激法（従来法）との比較	諏川大、川端 茂徳、大川 淳	整形外科
Spine (Phila Pa 1976). Feb 1;37(3):E174-9. 2012.	Hybrid grafting using bone marrow aspirate combined with porous β-tricalcium phosphate and trephine bone for lumbar posterolateral spinal fusion: a prospective, comparative study versus local bone grafting.	Yamada T, Yoshii T, Sotome S, Yuasa M, Kato T, Arai Y, Kawabata S, Tomizawa S, Sakaki K, Hirai T, Shinomiya K, Okawa A.	整形外科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
Spine. Jul 1; 37(15): E913-21. 2012.	Warning thresholds on the basis of origin of amplitude changes in transcranial electrical motor-evoked potential monitoring for cervical compression myelopathy.	Sakaki K, Kawabata S, Ukegawa D, Hirai T, Ishii S, Tomori M, Inose H, Yoshii T, Tomizawa S, Kato T, Shinomiya K, Okawa A	整形外科
PLoS ONE. 7(8): e43372. 2012.	Runx2 haploinsufficiency ameliorates the development of Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	Iwasaki M, Piao J, Kimura A, Sato S, Inose H, Ochi H, Asou Y, Shinomiya K, Okawa A, Takeda S	整形外科
Clin Neurophysiol. Aug;123(8):1656-61. 2012.	Conductive neuromagnetic fields in the lumbar spinal canal.	Ishii S, Kawabata S, Tomizawa S, Tomori M, Sakaki K, Shinomiya K, Sekihara K, Sato T, Adachi Y, Okawa A	整形外科
J Tissue Eng Regen Med. Jun 20. 2012.	Local injection of lovastatin in biodegradable polyurethane scaffolds enhances bone regeneration in A critical-sized segmental defect in rat femora.	Yoshii T, Hafeman AE, Esparza JM, Okawa A, Gutierrez G, Guelcher SA	整形外科
Spine (Phila Pa 1976). Dec 3. 2012. [Epub ahead of print]	Porous/Dense Composite Hydroxyapatite for Anterior Cervical Discectomy and Fusion.	Yoshii T, Yuasa M, Sotome S, Yamada T, Sakaki K, Hirai T, Taniyama T, Inose H, Kato T, Arai Y, Kawabata S, Tomizawa S, Enomoto M, Shinomiya K, Okawa A	整形外科
Am J Vet Res. Oct;73(10):1553-9. 2012.	Evaluation of the association between runt-related transcription factor 2 expression and intervertebral disk aging in dogs.	Itoh H, Hara Y, Tagawa M, Kato T, Ochi H, Koga D, Okawa A, Asou Y	整形外科
PLoS One. 2012;7(5):e37728. 2012.	Procyanidin B3 prevents articular cartilage degeneration and heterotopic cartilage formation in a mouse surgical osteoarthritis model.	Aini H, Ochi H, Iwata M, Okawa A, Koga D, Okazaki M, Sano A, Asou Y	整形外科
Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy (in press)	Attachments of separate small bundles of human posterior cruciate ligament: an anatomic study	Hatsushika D, Nimura A, Mochizuki T, Yamaguchi K, Muneta T, Akita K	運動器外科学
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2012 Apr 28. [Epub ahead of print]	Remnant volume of anterior cruciate ligament correlates preoperative patients' status and postoperative outcome.	Muneta T, Koga H, Ju YJ, Horie M, Nakamura T, Sekiya I.	運動器外科学
Arthroscopy (in press).	Effect of Posterolateral Bundle Graft Fixation Angles on Graft Tension Curves and Load Sharing in Double-bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using a Transtibial Drilling Technique.	Koga H, Muneta T, Yagishita K, Ju YJ, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Okawa A, Sekiya I.	運動器外科学
PLoS ONE In Press.	Osteopontin level in synovial fluid is associated with the severity of joint pain and cartilage degradation after anterior cruciate ligament rupture.	Yamaga M, Tsuji K, Miyatake K, Yamada J, Abula K, Ju YJ, Sekiya I, Muneta T.	運動器外科学
J Arthroplasty. (in print)	Knee Kinematics in Anterior Cruciate Ligament-Substituting Arthroplasty With or Without the Posterior Cruciate Ligament.	Watanabe T, Ishizuki M, Muneta T, Banks SA.	運動器外科学

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Bone Joint Nerve、159-165、Vol. 2 No.1 、2012	滑膜由来の幹細胞による再生医療	関矢一郎	運動器外科学
BIO Clinica、27巻9号、830-834、2012.08	関節と体性幹細胞　滑膜間葉系幹細胞による軟骨再生	関矢一郎	運動器外科学
日本医師会雑誌、1739 第141巻8号、2012	軟骨治療の深歩：滑膜幹細胞による軟骨再生	関矢一郎	運動器外科学
デンタルダイヤモンド、2012、4月号	臨滑膜由来の幹細胞を用いた半月板の再生治療	堀江雅史、宗田大、関矢一郎	運動器外科学
整形・災害外科、55(10):1243-1248,2012.	軟骨再生の細胞源としての滑膜間葉系幹細胞集合体の特性と有用性	鈴木　志郎、関矢　一郎、宗田　大	運動器外科学
Acta Derm Venereol, 92:360-361, 2012	Erythrodermic psoriasis improved by panitumumab, but not bevacizumab.	Nishizawa A, Satoh T, Yokozeki H	皮膚科
Exp Dermatol, 21:201-204, 2012	Anti pruritic effects of topical cretamiton, capsaicin, and a corticosteroid on pruritogen-induced scratching behavior.	Sekine R, Satoh T, Takaoka A, Saeki K, Yokozeki H	皮膚科
Acta Derm Venereol, 92:367-361, 2012	Impaired expression of Tim-3 on Th17 and Th1 cells in psoriasis.	Kanai Y, Satoh T, Igawa K, Yokozeki H	皮膚科
Br J Dermatol, 166:888-891, 2012	Congenital insensitivity to pain with anhidrosis: a case with preserved itch sensation to histamine and partial pain sensation.	Tanaka T, Satoh T, Tanaka A, Yokozeki H	皮膚科
皮膚科の臨床 53:429-432, 2012	抗TNF-α製剤による薬疹.	加藤恒平、高山かおる、佐藤貴浩、横関博雄	皮膚科
皮膚病診療 34:33-38, 2012	[アトピー性皮膚炎-2012] アトピー性皮膚炎の患者に発症した無汗性コリン性蕁麻疹.	加藤恒平、田中智子、佐藤貴浩、横関博雄	皮膚科
発汗学 19:35-39, 2012	原発性局所多汗症術後代償性発汗のアンケート集計結果.	藤本智子、宗次太吉、横関博雄、菅野範英、吉岡洋	皮膚科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Int J Urol. 19;886-9, author reply 890, 2012.	New three-dimensional head-mounted display system, TMDU-S-3D system, for minimally invasive surgery application: procedures for gasless single-port radical nephrectomy.	Kihara K, Fujii Y, Masuda H, Saito K, Koga F, Matsuoka Y, Numao N, Kojima K.	泌尿器科
GasLESS-clampless partial nephrectomy as a multiply satisfactory method. Int J Urol. 19;3-4, 2012.	Application of gasless laparoendoscopic single port surgery, GasLESS, to partial nephrectomy for renal cell carcinoma	Kihara K.	泌尿器科
Urology. 80;570-5, 2012.	Antimicrobial prophylaxis is not necessary in clean category minimally invasive surgery for renal and adrenal tumors. a prospective study of 373 consecutive patients.	Kijima T, Masuda H, Yoshida S, Tatokoro M, Yokoyama M, Numao N, Saito K, Koga F, Fujii Y, Kihara K.	泌尿器科
BJU Int. 110; E203-E208, 2012.	Pathology-based risk stratification of muscle-invasive bladder cancer patients undergoing cystectomy for persistant disease after induction chemoradiotherapy in bladder-sparing approaches.	Koga F, Fujii Y, Masuda H, Numao N, Yokoyama M, Ishioka J, Saito K, Kawakami S, Kihara K.	泌尿器科
BJU Int . 109; 860-866, 2012.	Selective bladder-sparing protocol consisting of induction low-dose chemoradiotherapy plus partial cystectomy with pelvic lymph node dissection against muscle-invasive bladder cancer, Oncological outcomes of the initial 46 cases.	Koga F, Kihara K, Yoshida S, Yokoyama M, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Kawakami S.	泌尿器科
Eur Urol. 2012 Oct 16. pii: S0302-2838(12)01229-8. doi: 10.1016/j.eururo.2012.10.010. [Epub ahead of print]	Combination of diffusion-weighted magnetic resonance imaging and extended prostate biopsy predicts lobes without significant cancer: application in patient selection for hemiablative focal therapy.	Matsuoka Y, Numao N, Saito K, Tanaka H, Kumagai J, Yoshida S, Koga F, Masuda H, Kawakami S, Fujii Y, Kihara K.	泌尿器科
BJU Int. 109(5);665-71, 2012.	Characteristics and clinical significance of prostate cancers missed by initial transrectal 12-core biopsy.	Numao N, Kawakami S, Sakura M, Yoshida S, Koga F, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Yamamoto S, Yonese J, Ishikawa Y, Fukui I, Kihara K.	泌尿器科
Int J Urol. 19;722-8, 2012.	Impact of renal function on cardiovascular events in patients undergoing radical nephrectomy for renal cancer.	Takeshita H, Yokoyama M, Fujii Y, Chiba K, Ishioka J, Noro A, Kihara K.	泌尿器科
Int J Cancer .131; 987-996, 2012.	Potential role of Hsp90 inhibitors in overcoming cisplatin resistance of bladder cancer-initiating cells.	Tatokoro M, Koga F, Yoshida S, Kawakami S, Fujii Y, Neckers L, Kihara K.	泌尿器科
Int J Radiat Oncol Biol Phys 83; e21-e27, 2012.	Role of diffusion-weighted magnetic resonance imaging in predicting sensitivity to chemoradiotherapy in muscle-invasive bladder cancer.	Yoshida S, Koga F (co-first author), Kobayashi S, Ishii C, Tanaka H, Tanaka H, Komai Y, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Kawakami S, Kihara K.	泌尿器科
Invest Ophthalmol Vis Sci. 2012; 53; 2349-2353	Vascular endothelial growth factor gene polymorphisms and choroidal neovascularization in highly myopic eyes.	Akagi-Kurashige Y, Kumagai K, Yamashiro K, Nakanishi H, Nakata I, Miyake M, Tsujikawa A, Moriyama M, Ohno-Matsui K, Mochizuki M, Yamada R, Matsuda F, Yoshimura N	眼科
Arthritis Res Ther. 2012; 14; R19	Inhibition of Th17 differentiation by anti-TNF-alpha therapy in uveitis patients with Behcet's disease.	Sugita S, Kawazoe Y, Imai A, Yamada Y, Horie S, Mochizuki M.	眼科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2012; 53: 3827-33	Simultaneous Analysis of Multiple Cytokines in the Vitreous of Patients with Sarcoid Uveitis.	Nagata K, Maruyama K, Uno K, Shinomiya K, Yoneda K, Hamuro J, Sugita S, Yoshimura T, Sonoda KH, Mochizuki M, Kineshita S	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2012; 53: 4692-4698	Virological Analysis in Patients with Human Herpes Virus 6 (HHV-6)-Associated Ocular Inflammatory Disorders.	Sugita S, Shimizu N, Watanabe K, Ogawa M, Maruyama K, Usui N, Mochizuki M.	眼科
Jpn J Ophthalmol. (in press).	Psoriasis Triggered by Infliximab in a Patient with Behçet's Disease. Jpn J Ophthalmol.	Kawazoe Y, Sugita S, Yamada Y, Akino A, Miura K, Mochizuki M.	眼科
Am J Ophthalmol, 2013; 155: 920-926	Detection of Zinn-Haller arterial ring in highly myopic eyes by simultaneous indocyanine green angiography and optical coherence tomography.	Ohno-Matsui K, Kasahara K, Moriyama M	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2012; 53: 7290-7298	Observations of vascular structures within and posterior to sclera in eyes with pathologic myopia by swept-source optical coherence tomography.	Ohno-Matsui K, Akiba M, Ishibashi T, Moriyama M	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2012; 53: 6048-6061	Association between shape of sclera and myopic retinochoroidal lesions in patients with pathologic myopia.	Ohno-MatsuiK, Akiba M, Modegi T, PhD, Tomita M, Ishibashi T, Tokoro T, Moriyama M	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2012; 53: 4510-4518	Quatitative analyses of high-resolution 3D MR images of highly myopic eyes to determine their shapes.	Moriyama M, Ohno-Matsui K, Modegi T, Kondo J, Tahahashi Y, Tomita M, Tokoro T, Morita I	眼科
RETINA, 2012; 32: 1037-1044	Evaluation of peripapillary intrachoroidal cavitation with sept source and enhanced depth imaging optical coherence tomography.	Spaide RF, Akiba M, Ohno-Matsui K	眼科
Am J Ophthalmol, 2012; 154: 382-393	Intrachoroidal cavitation in macular area of eyes with pathologic myopia.	Ohno-Matsui K, Akiba M, Moriyama M, Ishibashi T, Hirakata A, Tokoro T	眼科
Ophthalmology, 2012; 119: 1685-1692	Acquired Optic Nerve and Peripapillary Pits in Pathologic Myopia.	Ohno-Matsui K, Akiba M, Moriyama M, Shimada N, Ishibashi T, Tokoro T, Spaide RF	眼科
RETINA, 2012; 32: 687-695	Two Year Outcomes of Intravitreal Bevacizumab for Choroidal Neovascularization in Japanese Patients with Pathological Myopia.	Hayashi K, Shimada N, Moriyama M, Hayashi W, Tokoro T, Ohno-Matsui K	眼科
Eye, 2013;27:630-638	Characteristics of intrachoroidal cavitation located temporal to optic disc in highly myopic eyes.	Ohno-Matsui K, Kasahara K, Moriyama M.	眼科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Invest Ophthalmol Vis Sci 2013;54:1295-1302	Macular Bruch's Membrane Defects and Axial Length: Association with Gamma Zone and Delta Zone in Peripapillary Region.	Jonas JB, Spaide RF, Ohno-Matsui K.	眼科
Am J Ophthalmol 2013;155:654-663	Comparisons of nylon monofilament suture to polytetrafluoroethylene sheet for frontalis suspension surgery in eyes with congenital ptosis.	Hayashi K, Katori N, Kasai K, Kamisasanuki T, Kokubo K, Ohno-Matsui K.	眼科
Int Ophthalmol 2013;33:305-308	Polypoidal choroidal vasculopathy in a case with retinitis pigmentosa.	Ishida T, Ohno-Matsui K, Mochizuki M.	眼科
Mol Vis 2012;18:2726-2735.	Association of paired Box 6 with high myopia in Japanese.	Miyake M, Yamashiro K, Nakanishi H, Nakata I, Akagi-Kurashige Y, Tsujikawa A, Moriyama M, Ohno-Matsui K, Mochizuki M, Yamada R, Matsuda F, Yoshimura N.	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2013;251:495-499	Changes of axial length measured by IOL master during two years in eyes of adults with pathologic myopia.	Saka N, Moriyama M, Shimada N, Nagaoka N, Fukuda K, Hayashi K, Yoshida T, Tokoro T, Ohno-Matsui K.	眼科
Skull Base73: 195, 2012.	Otitis media with effusion and skull base lesion.	Tsunoda A, Sumi T, Shirakura S, Kishimoto S, Aoyagi M, Kawano Y	耳鼻咽喉科
ActaOtolaryngol 132: 10-15, 2012.	Longitudinal study of 29 patients with Meniere' s disease with follow-up of 10 years or more (In commemoration of Professor Emeritus Isamu Watanabe).	Sumi T, Watanabe I, Tsunoda A, Nishio A, Komatsuzaki A, Kitamura K	耳鼻咽喉科
AurisNasus Larynx 39;341-344, 2012.	Surgical management of large juvenile nasopharyngeal angiofibroma invading the infratemporal fossa with intracranial extradural parasellar involvement in an 8-year-old boy.	Yamada M, Tsunoda A, Hagino K, Aoyagi M, Kawano Y, Yano T, Tanaka K, Kishimoto S.	耳鼻咽喉科
耳展　55(5):105-110, 2012.	ELPSにおける手術支援機器についての考察	杉本太郎，岸本誠司，川田研郎，岡田卓也，清川佑介，野村文敬，得丸貴夫，有泉陽介，岸川正大	耳鼻咽喉科
日耳鼻会報　115:687-692, 2012.	内耳道への進展を認めた迷路内神経鞘腫の1例	野口佳裕，高橋正時，朝山直子，杉本太郎，喜多村健；正円寺小寫	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床　105:999-1009, 2012.	急性副鼻腔炎の成人例に対するCDTR-Piの高用量投与治療（200mg/回×3回/日）の有用性の検討	駿野幸治，石原明子，角卓郎，畑中章生，和佐野有紀，戸叶当史，喜多村健	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会会報　115(1):29-36, 2012.	腎移植後再発IgA腎症に対する口蓋扁桃摘出術の検討	倉田奈都子，高橋正時，古宇田寛子	耳鼻咽喉科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
耳鼻臨床 105:423-429, 2012,	鼻性NK/T細胞リンパ腫の7例	倉田奈都子、川島慶之、古宇田寛子、角卓郎、得丸貴夫、岸根有美、喜多村健	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床 105(7):681-685, 2012,	緊急気道確保を要したたこ焼きによる咽喉頭熱傷例	本田圭司、鎌田知子、田崎彰久、畑中東生	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx 39:341-344,2012	Surgical management of a case of large juvenile nasopharyngeal angiofibroma invading the infratemporal fossa with intracranial extra dural parasellar involvement in an 8-year-old boy	M Yamada, A Tsunoda, K Hegino, M Aoyagi, Y Kawano,T Yano, K Tanaka, S Kishimoto	頭頸部外科
J Neurol Surg B Skull Base 73:125-131,2012	A new concept for classifying skull base defects for reconstructive surgery	T Yano, M Okazaki, K Tanaka, H Iida, M Aoyagi, A Tsunoda, S Kishimoto	頭頸部外科
Ann Plastic Surg 68:286-289,2012	Usabitiy of the Middle Temporal Vein as a Recipient Vessel for Free Tissue Transeconstruction	T Yano,K Tanaka, H Iida, S Kishimoto, M Okazaki	頭頸部外科
口咽科25(2):191-195,2012	中咽頭側壁原発扁平上皮癌の臨床的検討	野村文敏、杉本太郎、清川佑介、岸本誠司	頭頸部外科
Otology Japan 22(3):209-213,2012	当科における耳科手術指導：画像所見と解剖所見の有機的結合	角田篤信、伊藤卓、喜多村健、岸本誠司	頭頸部外科
日本耳鼻咽喉科学会会報115:791-794,2012	手技・工夫「Thiel法による解剖体固定法とその有用性についての検討」	岡田隆平、角田篤信、知山直子、岸根有美、喜多村健、岸本誠司、秋田浩一	頭頸部外科
耳鼻臨床 105: 661-666,2012	化学放射線治療後に下咽頭穿孔をきたした下咽頭癌例	山田雅人、西尾綾子、桑波田慈子、角卓郎	頭頸部外科
頭頸部外科22(2):181-185,2012	舌扁平上皮癌T1N0,T2N0症例の検討～手術療法と小線源療法の比較～	得丸貴夫、杉本太郎、角田篤信、有泉陽介、清川祐介、野村文敏、岸本誠司	頭頸部外科
耳展55(5)331-333,2012	上顎骨に発生した線維性骨異形成症手術におけるナビゲーションシステムの応用	野村文敏、杉本太郎、岸本誠司	頭頸部外科
Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques 22(10):992-995,2012	Hybrid transvaginal and transumbilical laparoendoscopic adnexal surgery.	Yoshiki N, Okawa T, Kubota T	周産・女性診療科

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
麻酔 61(8):847-851,2012	運動誘発電位消失を来すも、対麻痺に至らなかった胸腹部大動脈手術の2症例-硬膜外冷却、スパイナルドレナージによる脊髄保護とグラフト側枝からのdistal perfusionによる管理症例-	)中沢弘一、稲富佑弦、山本雄大、小日向浩行、横田浩史	麻酔科
Stroke 2013; 44: 512-515.	Posterior cerebral artery laterality on MRA predicts long-term functional outcome in middle cerebral artery occlusion.	Ichijo M, Miki K, Ishibashi S, Tomita T, Kamata T, Fujigasaki H, Mizusawa H.	神経内科
Cerebellum 2012; 12: 171-175.	Low-Titer Anti-GAD-Antibody-Positive Cerebellar Ataxia.	Nanri K, Niwa H, Mitomia H, Takai A, Ikada J, Harada T, Okita M, Takeguchi M, Taguchi T, Mizusawa H.(Nanri医師は他施設所属なるも厚労省研究班分担研究者Mizusawaの研究)	神経内科
J Hum Genet 2012; 57: 202-206.	Prevalence of inositol 1, 4, 5-triphosphate receptor type 1 gene deletion, the mutation for spinocerebellar ataxia type 15, in Japan screened by gene dosage.	Obayashi M, Ishikawa K, Izumi Y, Takahashi M, Niimi Y, Sato N, Onodera O, Kaji R, Nishizawa M, Mizusawa H.	神経内科
European Neurology 2013; 69(6): 344-345.	Tacrolimus monotherapy: a promising option for ocular myasthenia gravis.	Yagi Y, Sanjo N, Yokota T, Mizusawa H.	神経内科
Neuroradiology 2013; 55: 165-169.	Distal hyperintense vessels on FLAIR images predict large-artery stenosis in patients with transient ischemic attack.	Yoshioka K, Ishibashi S, Shiraishi A, Yokota T, Mizusawa H.	神経内科
World J Surg 2012 ;36:2858-64	Hyperfractionated irradiation with 3 cycles of induction chemotherapy in stage ⅢA-N2 lung cancer.	Chen F, Okubo K, Sonobe M, Shibuya K, Matsuo Y, Kim YH, Yanagihara K, Bando T, Date H	呼吸外科
Respir Res 14: 57, 2013	Higher serum CCL17 maybe a promising predictor of acute exacerbation in chronic hypersensitivity pnumonitis.	Miyazaki Y, Unoura K, Tateishi T, Akashi T Takemura T, Inase N, Yoshizawa Y	呼吸器内科
J Craniofac Surg 23: 883-885, 2012	One stage transfer of 2 paddles of thoracodorsal artery perforator flap with 1 pair of vascular anastomoses for Barraquer-Simons syndrome.	Okazaki M, Tanaka K, Kodaira S, Homma T, Miyashita H.	形成・美容外科
頭蓋部癌 38: 6-12, 2012	再発を繰り返した頭蓋底腫瘍に対して複数回遊離皮弁再建を行った症例の検討.	矢野智之, 岡崎　睦, 田中顕太郎, 岸本誠司,	形成・美容外科
日本形成外科学会会誌 32: 289-293, 2012	日本人患者における、真皮の連続皮内縫合と単結節縫合における効果の相違に関する比較研究.	宮下宏紀, 森　弘樹, 植村佳子, 東郷央后, 岡崎　睦,	形成・美容外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2013;66:146-7.	Visualization of blood supply to the 'vascularized nerve' with anterolateral thigh flap using indocyanine green fluorescence angiography.	Tanaka K, Okazaki M.	形成・美容外科

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Exp Ther Med. 2012;4:397-400	Flow cytometric analysis of Notch1 and Jagged1 expression in normal blood cells and leukemia cells.	Kanamori E, Itoh M, Tojo N, Koyama T, Nara N, Tohda S	検査部
Oncol Lett. 2012;4:205-208	Advantages of the quenching probe method over other PCR-based methods for detection of the JAK2 V617F mutation.	Ono A, Okuhashi Y, Takahashi Y, Itoh M, Nara N, Tohda S	検査部
FASEB J. 26:211-8. 2012.	Involvement of aquaporin-7 in the cutaneous primary immune response through modulation of antigen uptake and migration in dendritic cells.	Hara-Chikuma M, Sugiyama Y, Kabashima K, Sohara E, Uchida S, Sasaki S, Inoue S, Miyachi Y.	血液浄化療法部
臨床体液　39:27-32, 2012.	短腸症候群に伴い低Mg血症・低Ca血症をきたした1症例	荒木雄也、鶴建光、河崎智樹、飯盛敏一郎、江流加代子、内藤省太郎、鈴原映誠、岡戸丈和、内田信一、佐々木成.	血液浄化療法部
日本急性血液浄化学会雑誌3(1):29-33, 2012.	持続的濾過透析(CHDF)施行時における至適活性化凝固時間(ACT)の検討	大久保淳、倉島直樹、鶴建光	血液浄化療法部
日本血液浄化技術学会会誌20(2):108-110. 2012	血漿交換(Plasma Exchange;PE)置換液濃度変更における安全性について	大久保淳、倉島直樹、中村敏子、菅野有造.	血液浄化療法部
日本急性血液浄化学会雑誌3(2):141-144. 2012.	急性血液浄化療法中における回路内凝固の危険因子	倉島直樹、大久保淳	血液浄化療法部
日本アフェレシス学会雑誌31:242-246. 2012.	免疫吸着療法を主体とするアフェレシス治療が有効したLambert-Eaton筋無力症候群の1例	青崎幸、岩本俊輔、佐藤英彦、渡邊敏子、木村仁志、一條真彦、鍋野征志、藤ヶ崎浩人、西山有紀子、瀬玲子、安藤亮一	血液浄化療法部
理学療法学　39:122-23, 2012.	THA前後における中殿筋と大殿筋の筋断面性の回復とJOA Hip Scoreとの関連－CTを用いて－	勝木貴子、相澤純也、磯崎弘司、神野哲也、森田定雄	リハビリテーション部
J Arthroplasty 27: 1538-43, 2012.	Comparison of different distal designs of femoral components and their effects on bone remodeling in 1-stage bilateral total hip arthroplasty.	Yamauchi Yuki, Jinno Tetsuya, Koga Daisuke, Asou Yoshinori, Morita Sadao, Okawa Atsushi.	リハビリテーション部
Journal of Medical and Dental Sciences 59: 2012.	The Effect of Mastication on Reaction Latency to Unanticipated External Disturbances in the Standing Position.	Keisuke Kaji, Munenori Katoh, Koji Iozaki, Junya Aizawa, Tadashi Masuda, Sadao Morita.	リハビリテーション部
日本高気圧環境・潜水医学会誌. 2012. 47:1-9.	レジャーダイバーにおける減圧症の発症誘因の統計学的検討.	鈴木武子、柳下和慶、外川誠一郎、山見信夫、岡崎史絵、芝山正治、椎塚誌仁、山本和雄、眞野喜洋.	高気圧治療部

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
スポーツ歯学2012, 15, 53-60	運動負荷に伴う唾液分泌機能低下現象に対する水分補給の効果	上野俊明, 山本(中野)真帆, 高橋敏幸, 安部圭祐, 豊島由佳子, 田辺麻衣, 下山和弘	スポーツ医歯学センター
Jpn J clin Oncol 43:69-73, 2013	Esophagial squamous cell carcinome developed 11 years after allogenic bone marrow transplantation for acute lymphatic leukemia	Miyawaki Y, Imoto I, Tokairin Y, Kawada K, Nakajima Y, Nishikage T, Nagai K, Kaiowara M, Inazawa J, kawano T.	輸血部
Hematology. 2012 May; 17(3):125-31	Prognostic significance of HOXB4 in de novo acute myeloid leukemia.	Umeda S, Yamamoto K, Murayama T, Hidaka M, Kurata M, Ohshima T, Suzuki S, Sugawara E, Kawano F, Kitagawa M	病理部
Exp Mol Pathol. 2012 Feb; 92(1):160-6	Overexpression of MCM2 in myelodysplastic syndromes: association with bone marrow cell apoptosis and peripheral cytopenia.	Suzuki S, Kurata M, Abe S, Miyazawa R, Murayama T, Hidaka M, Yamamoto K, Kitagawa M	病理部
Cancer 118(18):4427-4438, 2012	Identification of ALK Fusions in Renal Cancer: a Large Scale Immunohistochemical Screening by intercalated Antibody-enhanced Polymer Method.	Sugawara E, Togashi Y, Kuroda N, Sakata S, Hatano S, Asaka R, Yuasa T, Yonese J, Kitagawa M, Mano H, Ishikawa Y, Takeuchi K	病理部
J Microbiol 50(5):827-38,2012	Possible translocation of periodontal pathogens into the lymph nodes draining the oral cavity.	Amodini Rajakaruna G, Umeda M, Uchida K, Furukawa A, Yuan B, Suzuki Y, Noriko E, Izumi Y, Eishi Y.	病理部
Respir Investig 50(3):104-9,2012	Th1 and Th17 immune responses to viable Propionibacterium acnes in patients with sarcoidosis.	Furusawa H, Suzuki Y, Miyazaki Y, Inase N, Eishi Y.	病理部
Med Pathol 25(9):1284-97,2012	Localization of propionibacterium acnes in granulomas supports a possible etiologic link between sarcoidosis and the bacterium.	Negi M, Takemura T, Guzman J, Uchida K, Furukawa A, Suzuki Y, Iida T, Ishige I, Minami J, Yamada T, Kawachi H, Costabel U, Eishi Y.	病理部
J Histochem Cytochem 60(1):76-86,2012	Widespread expression of γ-glutamyl cyclotransferase suggests it is not a general tumor marker.	Amano T, Eishi Y, Yamada T, Uchida K, Minegishi K, Tamura T, Kobayashi D, Hiroshi K, Suzuki T, Board PG.	病理部
J Med Dent Sci. 59:17-28,2012	Reduced expression of cytokeratin 4 and 13 is a valuable marker for histologic grading of esophageal squamous intraepithelial neoplasia.	Takashima M, Kawachi H, Yamaguchi T, Nakajima Y, Kitagaki K, Sekine M, Eda T, Takemura K, Kawano T, Eishi Y.	病理部
Surg Today. 2012.	Combined resection of a tumor and the inferior vena cava: report of two cases.	Jibiki M, Inoue Y, Kudo T, Toyofuku T, Saito K, Kihara K, Kudo A, Ban D, Arii S.	集中治療部
Ann Vasc Dis. 2012;5(2):157-160.	Surgical procedures for renal artery aneurysms.	Jibiki M, Inoue Y, Kudo T, Toyofuku T.	集中治療部

計 12件

（様式第11）

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所 属 部 門
J Trauma Acute Care Surg. 72:1541-7, 2012	Lipidomics analysis of mesenteric lymph after trauma and hemorrhagic shock.	Morishita K, Aiboshi J, Kobayashi T, Mikami S, Yokoyama Y, Ogawa K,Yokota H, Otomo Y	救命救急センター
Acta Neurochirurgica. 154:2195-202, 2012	Circulatory characteristics of normovolemia and normotension therapy after subarachnoid hemorrhage, focusing on pulmonary edema.	Sato Y, Isotani E, Kubota Y, Otomo Y, Ohno K	救命救急センター
Critical Care 2012; 16:R232.	The clinical usefulness of extravascular lung water and pulmonary vascular permeability index to diagnose and characterize pulmonary edema: a prospective multicenter study on the quantitative differential diagnostic definition for acute lung injury/acute respiratory distress syndrome.	Shigeki Kushimoto, Yasuhiko Taira, Yasuhide Kitazawa, Kazuo Okuchi, Teruo Sakamoto, Hiroyasu Ishikura, Tomoyuki Endo, Satoshi Yamanouchi, Takashi Tagami, Junko Yamaguchi, Kazuhide Yoshikawa, Manabu Sugita, Yoichi Kasa, Takashi Kanemura, Hiroyuki Takahashi, Yuichi Kuroki, Hiroo Izumino, Hiroshi Rinka, Ryutarou Sao, Makoto Takatori, Tadashi Kaneko, Toshiaki Nakamura, Takayuki Inhara, Nobuyuki Saito, Akihiro Watanabe	救命救急センター
Resuscitation 83(6):734-9, 2012	Prediction protocol for neurological outcome for survivors of out-of-hospital cardiac arrest treated with targeted temperature management.	Okada K, Ohde S, Otani N, Sera T, Mochizuki T, Aoki M, Ishimatsu S	救命救急センター
J Clin Immunol. 33(4):857-64, 2013	Rapid detection of intracellular p47phox and p67phox by flow cytometry; useful screening tests for chronic granulomatous disease.	Wada T, Murasoka M, Tome T, Imai T, Shigemura T, Agematsu K, Hanagaki K, Morisaki H, Oh-Ishi T, Kitoh T, Ohara O, Morio T, Yachie A.	細胞治療センター
J Control Release. 166(3):307-15, 2013	Amelioration of neurodegenerative diseases by cell death-induced cytoplasmic delivery of humanin.	Park TY, Kim SH, Shin YC, Lee NH, Lee RK, Shim JH, Glimcher LH, Mook-Jung I, Cheong E, Kim WK, Honda F, Morio T, Lim JS, Lee SK.	細胞治療センター
J Allergy Clin Immunol. 131(5):1437-40, 2013	Common variable immunodeficiency classification by quantifying T-cell receptor and immunoglobulin κ-deleting recombination excision circles.	Kamae C, Nakagawa N, Sato H, Honma K, Mitsuiki N, Ohara O, Kanegane H, Pasic S, Pan-Hammarström Q, van Zelm MC, Morio T, Imai K, Honoyama S.	細胞治療センター
Cell Medicine 4(1): 13-21, 2012	Comparison of Gingiva, Dental Pulp, and Periodontal Ligament Cells From the Standpoint of Mesenchymal Stem Cell Properties	Sekiya I	細胞治療センター
Cytotherapy. 14(3): 327-338, 2012	Arthroscopic, histological and MRI analyses of cartilage repair after a minimally invasive method of transplantation of allogeneic synovial mesenchymal stromal cells into cartilage defects in pigs	Sekiya I	細胞治療センター
J Bone Joint Surg Am. 18;94(8):701-12, 2012.Apr	Implantation of allogenic synovial stem cells promotes meniscal regeneration in a rabbit meniscal defect model	Sekiya I	細胞治療センター
Osteoarthritis Cartilage. 20(10):1197-207, 2012.Oct	Intra-articular injection of human mesenchymal stem cells (MSCs) promote rat meniscal regeneration by being activated to express Indian hedgehog that enhances expression of type II collagen	Sekiya I	細胞治療センター
J Orthop Res. 30(6):943-9, 2012	Human mesenchymal stem cells in synovial fluid increase in the knee with degenerated cartilage and osteoarthritis	Sekiya I	細胞治療センター

計 12件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Res Ther;14(3):R136, 2012	Properties and usefulness of aggregates of synovial mesenchymal stem cells as a source for cartilage regeneration	Sekiya I	細胞治療センター
PLoS One 7, e45517, 2012	Isolation and characterization of multipotential mesenchymal cells from the mouse synovium	Sekiya I	細胞治療センター
Jpn J Ophthalmol, 56(6):529-535, 2012	Broad-range real-time PCR assay for detection of bacterial DNA in ocular samples from infectious endophthalmitis	Shimizu N	細胞治療センター
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2012 Jul 12;53(8):4692-8, Print 2012 Jul	Virological analysis in patients with human herpes virus 8-associated ocular inflammatory disorders	Shimizu N	細胞治療センター
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol, 250(12):1877-1883, 2012	Novel diagnosis of fungal endophthalmitis by broad-range real-time PCR detection of fungal 28S ribosomal DNA	Shimizu N	細胞治療センター
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol, 250:391-398, 2012	Detection of Candida & Aspergillus species DNA using broad-range real-time PCR for fungal endophthalmitis	Shimizu N	細胞治療センター
Int J Cardiol, 2012 http://dx.doi.org/10.1016/j.ijcard.2012.09.021	Endothelial dysfunction measured by peripheral arterial tonometry predicts prognosis in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Matsue Y, Suzuki M, Nagahori W, Ohno M, Matsumura A, Hashimoto Y, Yoshida K, Yoshida M	生命倫理研究センター
Circ J. 76: 221-229 (2012)	Effect of Intensive Lipid-Lowering Therapy With Rosuvastatin on Progression of Carotid Intima-Media Thickness in Japanese Patients.	Nohara R, Daida H, Hata M, Kaku K, Kawamori R, Kishimoto J, Kurabayashi M, Masuda I, Sakuma I, Yamazaki T, Yokoi H, Yoshida M	生命倫理研究センター
Atherosclerosis 2012;225:208-15	A multicenter study on the precision and accuracy of homogeneous assays for LDL-cholesterol: comparison with beta-quantification method using fresh serum obtained from non-diseased and diseased subjects.	Miida T, Nishimura K, Okamura T, Hirayama S, Ohmura H, Yoshida H, Miyashita Y, Ai M, Tanaka A, Sumino H, Murakami M, Inoue I, Kayamori Y, Nakamura M, Nobori T, Miyazawa Y, Teramoto T, Yokoyama S.	生命倫理研究センター
BMC Nephrol, 26; 13; 122, 2012	Applicability of fibroblast growth factor 23 for evaluation of risk of vertebral fracture and chronic kidney disease-mineral bone disease in elderly chronic kidney disease patients.	Kanda E, Yoshida M, Sasaki S.	生命倫理研究センター

計 10件

合計 262件

(注)　1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長　田中　雄二郎
管理担当者氏名	(総務課長) 菅瀬　真生　(管理課長) 海老根　俊浩 (医事課長) 工藤　晃　(医療支援課長) 亘　治彦

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 ①処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 ②病院日誌、各科診療日誌 ③エックス線写真			① 病歴管理室 ② 総務課 ③ 各診療科	〔入院カルテ〕 入院中は当該病棟で管理し退院後は病歴管理室で一括管理している。 〔外来カルテ〕 病歴管理室で一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		総務部人事課	
	高度の医療の提供の実績		医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		管理課	
	高度の医療の研修の実績		総務課	
	閲覧実績		総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		医事課	
	①入院患者数、外来患者 ②調剤の数を明らかにする帳簿		① 医事課 ② 薬剤部	
	第規一則号第に一掲条げの る十体一制第の一確項保各の号状及況び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携支援センター患者相談室	

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	安全管理対策室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	安全管理対策室	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	安全管理対策室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	安全管理対策室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室	

(注)　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(事務部長) 神田　和明
閲覧担当者氏名	(総務課長) 菅瀬　真生
閲覧の求めに応じる場所	病院特別会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率		78.0 %	算定期間	平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数			18,568 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,280 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			7,050 人
	D：初診の患者の数			35,743 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式第 13-2）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊒・無
・ 指針の主な内容： ○インフォームドコンセントを徹底した患者本位の全人的医療，安全な医療の提供を行う。 ○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する。 ○医療における基本の徹底と質の向上を図る。 ○上記の目的を実施するため，次の機構を組織 （１）安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施，各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 （２）リスクマネージャー会議…各診療科，中央診療部門の中核となる実務者で構成し，日常における安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。 （３）安全管理対策室…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに，事故防止に関する適宜マニュアルの追加並びに指導を行う。 ○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年１９回
・ 活動の主な内容： ○医療事故防止に関する方策の検討・実施，各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 ○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。 ○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに，事故防止に関する指導を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年２８回
・ 研修の主な内容： ○医療メディエーション ○院内における自殺予防対策について ○子ども虐待は再発率・致死率の高い重篤な小児疾患です。見逃してはいけません	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備　（ ㊒・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○インシデント・アクシデント報告の内容分析 ○リスクマネージャー会議でのワーキンググループ	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊒（２名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊒（２名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊒・無
・ 所属職員：　専任（３）名　兼任（３）名 ・ 活動の主な内容： （１）事故・インシデント等の情報収集、分析、改善。 （２）安全管理対策の立案・調整・周知・評価。 （３）職員への教育研修の企画、実施・マニュアルの作成。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊒・無

（様式第 13-2）

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ○職員に対する研修に関する基本方針 (1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策について，職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。 (2) 職員研修は、就職時の初期研修のほか，全職員および職種別対象を年２回以上開催する。 (3) 研修の開催結果を記録・保存する。 ○感染症の発生状況の報告に関する基本方針 MRSA等の感染を防止するため，「院内感染現況報告」を週１回程度作成し，院内感染対策室にて確認・検討を行うとともに，対策チームを通じ院内への情報提供･注意喚起に活用する。また，検討結果は委員会にて報告され，再確認等，活用する。 ○院内感染発生時の対応に関する基本方針 異常発生時は，その状況および患者への対応等を病院長に報告する。院内感染対策室にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに，状況に応じ委員会を開催する。 改善策を実施するために院内感染対策室・対策チームを中心に全職員への周知徹底を図る。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年１１回
・ 活動の主な内容： ○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および研修等を行う。 ○定期的（週１回）な院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行う。 ○医療現場においての感染防止対策に関する取組みの評価を行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年１６回
・ 研修の主な内容： ○病院全職員を対象とした院内感染及び感染症等に関する研修の実施 (1) 周術期感染対策と薬剤耐性菌の動向 (2) 当院における、２００７年～２０１１年の血液培養分離菌の動向	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（ (有)・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医療現場の感染対策に関する環境整備の定期的な確認及び指導 (2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供 (3) 細菌検査担当者，薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める (4) エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。	

（様式第 13-2）

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年１回
・ 研修の主な内容： ○当院における持参薬の現状 ○内服薬処方箋の記載方法の在り方について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ (有)・無 ） ・ 業務の主な内容： ○医薬品の採用・購入 ○医薬品の管理（麻薬等の管理方法等） ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い ○他施設（病院等、薬局等）との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ (有)・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるＰＭＤＡ医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供	

（様式第 13-2）

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年１４回
・ 研修の主な内容： ○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法 ○酸素療法 ○人工呼吸器の安全管理 等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （ (有)・無 ） ・ 保守点検の主な内容： ○人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置 等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ (有)・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるＰＭＤＡ医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供	